

コミュニティガーデンにおける活動の場の構成要素と活動内容の関係性について  
～兵庫県内の事例を対象として～

1. 背景・目的

近年、オープンスペースが地域のまちづくりに果たす役割や、多面的機能が積極的に認識され始めている。特に地域住民が共同でオープンスペースに緑や花を植えた「コミュニティガーデン」は地域の良好な環境づくりにも貢献することから、その取り組みが盛んになってきている。

コミュニティガーデンを対象に行った研究では、平田<sup>1)</sup>がコミュニティガーデンのリーダー的存在となるガーデンナーの育成プログラム受講者の意識について明らかにし、阿部<sup>2)</sup>が試験的にコミュニティガーデンを設置し、運営の際の効果と課題を整理した。しかしこれらの研究では、コミュニティガーデンの活動の場の構成要素に注目し、それらの活動の場の構成要素の違いにより生じる活動内容の変化や地域住民の行動に与える波及効果については明らかにされていない。

以上のような背景を踏まえ、本研究ではコミュニティガーデンと地域住民と活動空間との関わりに着目し、都市部にあるコミュニティガーデンの実態を把握し、コミュニティガーデンにおける活動の場の構成要素と活動内容の関係性を明らかにすることを目的とする。

2. 意義

今後コミュニティガーデンへの取り組みはさらに高まっていくと予想されるため、コミュニティガーデンにおける活動の場の構成要素と活動内容の関係性を明らかにすることによって、コミュニティガーデンの効用を提示し、今後、行政や各自治体が都市緑化と市民参加を軸にした緑あふれるまちづくりを計画する際にコミュニティガーデンの採用を促進し、またコミュニティガーデンを運営する地域住民にとっても参考になるという点で意義がある。

3. 用語の定義

本研究において使用する用語について解説する。

- (1) コミュニティガーデン…管理主体および作業主体は地域住民。地域住民が主体的にメンバーを募り、一部指定された活動場所で活動する。地域住民が活動内容を自ら設定し、花壇活動を初めとする多様な活動に取り組む。
- (2) 市民花壇…管理主体は各自治体、作業主体は地域住民が中心となる。自治体が定める活動場所、メンバー、植栽の枠内で、花壇活動を行う。
- (3) 活動の場の構成要素
  - (3)-1 花壇の配置状況…コミュニティガーデン活動範囲内における花壇の分布の仕方。花壇の様式や個数によっていくつかのタイプに分けられる。
  - (3)-2 施設内容…コミュニティガーデン内にある施設の詳細。ベンチ・テーブルなどの設備や植栽を指す。
- (4) 活動内容…コミュニティガーデン活動団体が行う活動。花壇活動等の日常的な活動や、講習会等の定期的な活動も含む。また、活動メンバー以外の地域住民が加わり、コミュニティガーデンを利用して行う場合の活動も含む。

4. 仮説の立案

文献資料<sup>4)</sup>によると、コミュニティガーデンの運営によ

り、地域緑化、防災・防犯に役立つなど、よりよい地域社会づくりに貢献することができると期待されている。そこで、本研究ではコミュニティガーデンの活動の場の構成要素と活動内容に着目し、コミュニティガーデンの運営により発生する効果は、活動の場の構成要素と活動内容の関係によってもたらされるものであると考え、次のような仮説を立案した。

仮説：「コミュニティガーデンの活動の場の構成要素に工夫を凝らすことで、活動内容を選定することができ、それによって地域の課題を解決することにつながる。」

以下の分析より、この仮説について検証していく。

5. 研究の方法

5-1. 研究の手順

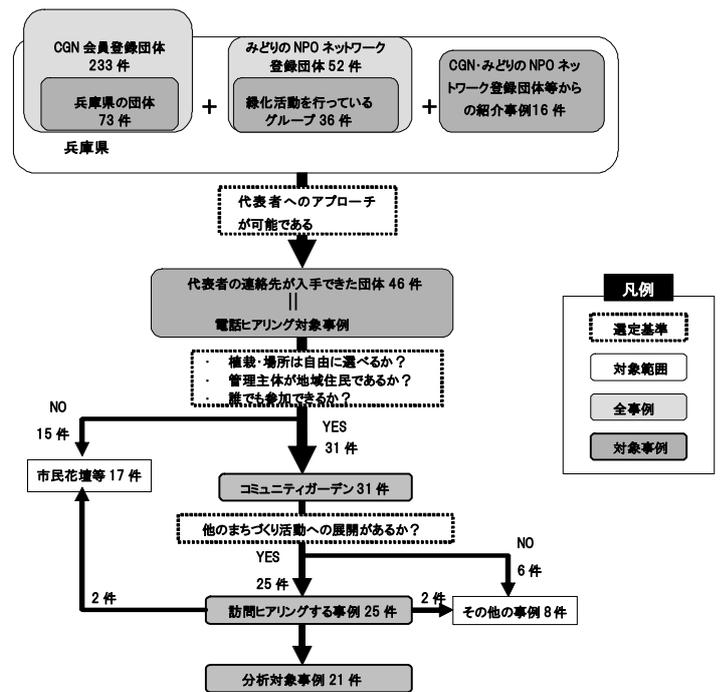


図1 対象事例選定の流れ

(1)対象範囲と事例の選定

都市緑化基金<sup>5)</sup>が運営する「コミュニティガーデンネットワーク（以下CGN）」<sup>6)</sup>の登録団体233件中、兵庫県の団体が73件と最も多かった。また、兵庫県では1995年に発生した阪神淡路大震災後、まちの緑化活動が積極的に行われていた点等の背景を踏まえ、兵庫県はコミュニティガーデン活動に対して力を入れている自治体であると判断し、兵庫県を対象範囲と定めた。

「CGN」会員登録団体のうち兵庫県の団体73件に加えて、兵庫県内の緑化活動グループの情報交換の場となっている、「みどりのNPOネットワーク」<sup>7)</sup>に登録されている52件のうち、緑化活動を行っている団体36件、またそれらの団体等の紹介により16件の事例を得て、合計125件の活動団体を対象事例とした。

次に、対象範囲内の事例のうち、代表者へのアプローチが可能であった事例を電話ヒアリング対象事例とした。対象事例がコミュニティガーデンの定義に当てはまるかど

うかの評価基準として、「活動の自由度は高いか」、「管理主体は地域住民であるか」、「誰でも参加できるか」の3項目を満たす場合はコミュニティガーデン、これを満たさない場合は市民花壇等と位置づける。さらに「他のまちづくり活動への展開が見られるか」という項目を満たす場合は訪問ヒアリングする事例とし、これを満たさない場合はそれ以外の事例と位置づける。

この選定作業により、46件の事例を選定し、コミュニティガーデンであり、尚且つ訪問ヒアリングする事例に当てはまったのは21件であった。この21件を、訪問ヒアリング対象事例とした。21事例の団体名および位置を図2に示す。

- ①西畑フラワーロードの会
- ②緑のこだま
- ③アステム芦屋AB棟管理組合
- ④M'sガーデン
- ⑤レスタージュ芦屋管理組合
- ⑥PMOあしや
- ⑦コミュニティガーデンクラブふるる
- ⑧花の宝殿
- ⑨米田県住フラワーロード
- ⑩有野台エコタウンクラブ
- ⑪淡路公園を楽もう会
- ⑫春日町自治会
- ⑬コープ神戸西ローズマリー
- ⑭コープ大久保ハナミズキ
- ⑮新開地まちづくりエヌピーオー
- ⑯北須磨団地公園管理会
- ⑰500人委員会板宿会
- ⑱浜の宮公園を愛する会
- ⑲高砂花と緑のまちづくり協議会
- ⑳AGN加古川
- ㉑パーベナ淡路



図2 ヒアリング地点

(2)分析の枠組み

(2)-1. 分析1：活動の場の構成要素の分析

- ・分析1-1：花壇の配置状況の分析  
コミュニティガーデン活動範囲内における花壇の分布の仕方、花壇の様式、個数、規模等に着目し、花壇の配置状況を整理し、数種類のタイプに分類する。
- ・分析1-2：施設内容の分析  
コミュニティガーデン内の植栽および設備の保持状況を事例ごとに整理した。また保持する設備が既存(公

共)のものであるか、あるいは活動メンバーによって制作されたものであるかをまとめた。

(2)-2. 分析2：活動内容の分析

まず、活動発足の契機を整理し、グラフ化した。次に、活動内容を列挙し、定期的活動と日常的活動に分けた後に、定期的活動についてKJ法を用いてグルーピングした。さらに、すべての活動内容を、コミュニティガーデンに関連する活動と、関連しない活動に整理し表にまとめた。

(2)-3. 分析3：活動の場の構成要素と活動内容の関係に関する分析

分析1-1で分類された花壇の配置状況、分析1-2で事例ごとに整理した施設内容、分析2により整理された活動内容、の3つを総括し、事例ごとに活動発足の契機から活動スタート後の変化までを表に整理し、施設内容と活動内容の関係性を明らかにした。

5-2. 調査方法

- 1)コミュニティガーデン事業に関する文献資料の収集
- 2)電話ヒアリング (2006年5月~7月中旬実施、1件につき15~20分)
- 3)訪問ヒアリングと参与観察 (プレ調査2005年12月・本調査2006年7~10月実施、1件につき1時間半~2時間)

6. コミュニティガーデンの活動の場の構成要素と活動内容の関係についての分析結果

6-1. 分析1：活動の場の構成要素の分析結果

6-1-1：花壇の配置状況の分析

花壇の配置状況をその特徴ごとにいくつかのタイプに整理した結果、表1のようになった。

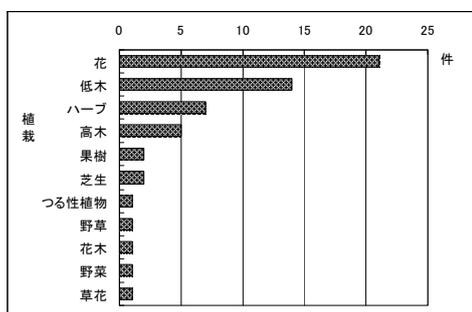
6-1-2：施設内容の分析

施設内容として植栽と設備について、保持状況を整理した結果、グラフ1、2を得た。

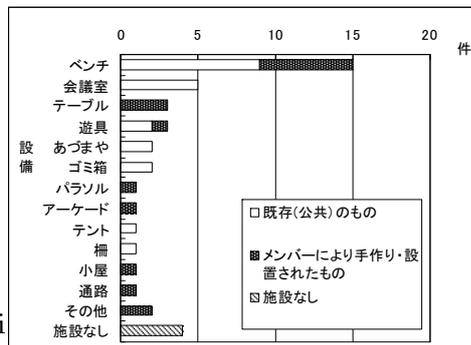
表1 花壇の配置状況の分類

タイプ	コア1ヶ所型	コア+サブ数ヶ所型	沿道型	コア+サブ数ヶ所+オープンガーデン型
モデル図				
概要	活動範囲の中にコアとなる花壇を1ヶ所持つ	活動範囲の中にコアとなる花壇1ヶ所と、サブとなる花壇を数ヶ所持つ	活動範囲内の沿道または商店街沿いに連なった花壇を持つ	活動範囲の中にコアとなる花壇1ヶ所と、サブとなる花壇を数ヶ所、さらにオープンガーデン <small>※1</small> を持つ
スケール	約45~4000㎡	約0.4~3km <sup>2</sup>	約450m~2km 沿い	約400km <sup>2</sup>
該当事例数	12	6	2	1

※1 オープンガーデン...個人の家の庭をチャリティーとして公開し一般の人に見てもらうもの



グラフ1 植栽の保持状況



グラフ2 設備の保持状況



グラフ4より、スキルアップ系は活動場所に関係なく、あらゆるグループによって行われていることがわかる。この理由は、スキルアップ系の活動は、活動場所だけに限らず、会議室や他グループの活動場所で催されるため、特別なスペースを必要としないためである。一方、地域貢献系と成果物の発表系は、活動している花壇や、花壇周辺にある程度の広さがないと実施できない場合が多いため、スペースの確保しやすい公園や空き地を活動場所とするグループによって多く行われていることがわかった。また、娯楽系の活動は、花壇周辺にスペースを必要とする場合と、会議室等の別の場所を利用して行う場合がある。よって、公園や空き地を活動場所とするグループだけでなく、加古川市駅前の商店街で活動する「AGN 加古川」のように、スペースを持たないグループでも会議室を上手く利用している例が見られた。

また、日常的な活動では、人々が集まる場がある花壇の配置状況でのみ、活動が見られた。中でも、神戸市北区で活動する「有野台エコタウンクラブ」のように、ベンチ等の休憩が可能な設備を持つグループでは、「休憩場所となる」、「お茶会」等の活動が行われていることがわかった。一方、加古川市で活動する「浜の宮公園を愛する会」のように、ベンチ等の休憩が可能な設備を持たないグループでは、「散歩コースとなる」という活動が見られ、地域住民が散歩をしながら花や緑を楽しむという例が見られた。

分析 3-2: 活動の場の構成要素と活動内容の関係図の作成

これまでの分析より、活動の契機から活動開始後の変化までの流れを表した関係図を作成し、図4を得た。

図4より、コミュニティガーデンによって以下の3つの効果が確認された。

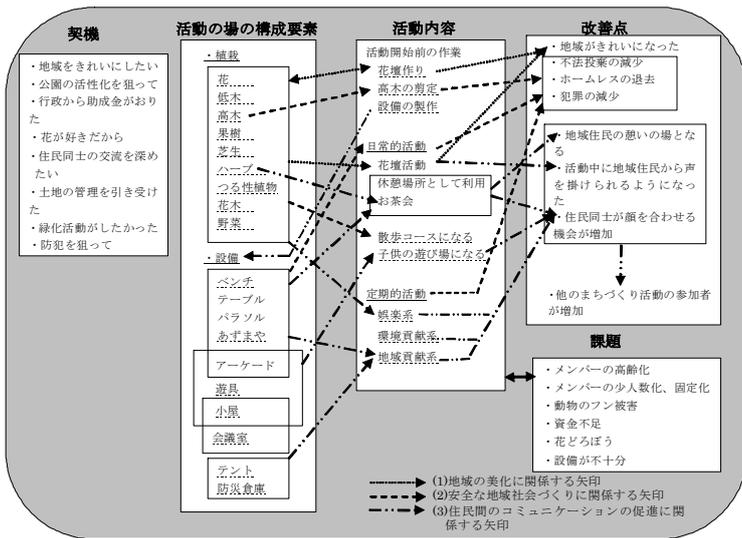


図4 施設内容と活動内容の関係図

### (1)地域の美化

まず、コミュニティガーデンを開設するための作業として、花壇作りを行い活動場所を整備し、植栽に花を選定することによって、地域の美化に寄与する。また、花壇活動の継続によって、コミュニティガーデンを維持することで花と緑あふれる地域づくりに貢献することが可能となる。

### (2)安全な地域社会づくり

まず、コミュニティガーデンを開設するための作業として、高木の剪定等の周辺環境の整備を行う。そうして活動場所周辺の退廃を改善し、高木等による死角を取り払うことで、オープンな空間を作り、犯罪の起こりにくい環境を整える。また、日常的に花壇活動を行ったり、地域住民の休憩の場とな

るなど、常に人が行き来する場を作ることで、治安の維持に貢献することができ、安全な地域社会の構築につながる。

### (3)住民間のコミュニケーションの促進

コミュニティガーデンの植栽の選定や、設備の製作・設置によって憩いの場を作り出すことにより、その活動の場の構成要素を利用した「お茶会」や「休憩場所として利用」等の日常的活動や、「娯楽系」、「環境貢献系」、「地域貢献系」の定期的活動が可能となる。また、それらの活動に地域住民も参加できるため、活動メンバー間だけでなく、住民間のコミュニケーションの促進に貢献する。

(1)~(3)の効果が明らかになった一方で、活動を行う上で、メンバーの高齢化や資金不足、花どろぼう等の課題を抱えていることがヒアリングによりわかった。

## 7. 結論

以上の調査分析より、コミュニティガーデンの活動の場の構成要素と活動内容が相互に影響を与え、「地域の美化」、「安全な地域社会づくり」、「住民間のコミュニケーションの促進」、といった3点の効果をもたらす関係にあることが明らかになった。また、これらの効果を得たい場合にはどのような活動の場の構成要素や活動内容を設定するのが適当かが明らかになった。

「地域の美化」に力を入れたい場合、花壇活動の継続により、花と緑の維持管理をする必要がある。そのためには、まず活動場所を整備し、花壇作りを行い、花壇の植栽に花や緑を選定することが望ましい。

「安全な地域社会づくり」に力を入れたい場合、常に人が行き来する場作りを行う必要がある。そのためには定期的に地域住民も参加できる活動を催すだけでなく、日常的に地域住民も休憩などで立ち寄れるように、ベンチなどの憩いの設備を設置すると効果的である。また、周辺環境の整備として、高木を剪定することにより、オープンな空間を作ることも併せて行うことが求められる。

「住民間のコミュニケーションの促進」に力を入れたい場合、定期的活動に地域住民の参加を積極的に呼びかけ、住民同士が顔を合わせる場を設けることが望ましい。また、日常的に地域住民が「お茶会」や「休憩場所として利用」ができるように植栽の選定や設備の製作・設置によって憩いの場を作り出すことが効果的である。

これらより、活動の場の構成要素に応じて活動内容を選定する、あるいは、活動内容に応じて活動の場の構成要素を変更することで、それぞれの地域の課題に対応していくことが可能となると考える。

今後は、本研究で立案された仮説をより明確に検証していくことが課題と言える。また、コミュニティガーデンについては、行政の支援制度、地域住民の利用状況、コミュニティガーデンをいかに継続性させるかについても明確にすることが望まれる。

## 8. 参考文献

- 1) 平田富士男：アメリカのマスターガーデナーの人材像とその育成法，ランドスケープ研究，65(5)，817-822(2002)
- 2) 平田富士男：アメリカのマスターガーデナーとそのプログラム受講者の意識と活動，都市計画論文集，40(3)，799-804(2005)
- 3) 阿部一博，堀内昭作：コミュニティガーデンの試験的な実施・運営における効果と課題：日本農業教育学会誌，34(1)，11-18(2003)
- 4) 越川秀治：コミュニティガーデン 市民がすすめる緑のまちづくり，学芸出版社(2002)
- 5) 都市緑化基金，< <http://www.urban-green.or.jp/home/home.html> >，2005/11
- 6) コミュニティガーデンネットワーク，< <http://www.g-cgn.jp/index.html> >，2005/11
- 7) みどりのNPOネットワーク，< <http://www.midori-npo.net/syushi.htm> >，2006/02

# Study on the relationship between the components of a place and the activities

## of community gardens

—Case study in Hyogo prefecture—

Miyuki Hashimoto Nishikizawa Laboratory

### 1. The background and purpose of this study

In late years, the roles that open spaces achieve to town planning and multiple functions begin to be recognized positively. In particular, “community gardens”, the activity that local inhabitants plant green and flowers jointly, increase because this action contributes to the making of local good environment. Precedent studies about the community garden, there are about consciousness of a student attending a lecture of a program to bring up Gardiner, and about effect and a problem of case of administration. However, in these studies, it was insufficient to grasp the actual situation. And there is not yet the study that paid attention to institutions form of community gardens, a ripple effect to give a change of activity contents and an action of local inhabitants growing by a difference of a components of a place does not become still clear.

Therefore, I pay my attention to community gardens and a relation with neighboring areas and grasp the actual situation. So a purpose of this study is to clarify the relations of the components of a place and the activities of community gardens, I hypothesize and inspect a hypothesis of effect to occur from this relations.

### 2. The method of this study

This research is done by the following procedures.

- 1) I draft a hypothesis of effect to occur from relations of the components of a place and the activities of community gardens.
- 2) I choose an object range and object examples.
- 3) I analyze it about relations of the components of a place and the activities.
  - 3)-1. Analysis of components of a place of activity
  - 3)-2. Analysis of activities
  - 3)-3. Analysis about relations of the components of a place and the activities

### 3. The conclusion of this study

By investigation analysis, the components of a

place and the activities of community gardens affected it mutually, and it became clear to bring three effects to give next. In addition, it became clear, when we want to get those effects, it is precise to set what kind of the components of a place and the activities

#### 1) Local beautification

When we want to lay emphasis on "local beautification", it is necessary to do a flower and green maintenance by continuation of flower bed activity. Therefore at first we get an activity place ready and make flower beds, and it is precise to choose a flower and green for planting of a flower bed.

#### 2) The making of safe community

When we want to lay emphasis on "the making of safe community", we have to make the place where a person always comes and goes. Therefore it is effective not only we hold the activity that local inhabitants can participate in regularly but also we install facilities of rest such as benches for area inhabitants can drop in by breaks routinely. In addition, it is precise to perform that we make the air space which opens out by pruning high trees as neighboring environmental maintenance.

#### 3) Promotion of communication between inhabitants

When we want to lay emphasis on "promotion of communication between inhabitants", we call for participation of local inhabitants for periodical activity positively, and it is desirable that we establish the place that inhabitants can meet each other. In addition, it is suitable to create places for rest by the choice of planting and the establishment of facilities for local inhabitants "hold a tea party" and "use it as a break place" routinely.

So, I think that we can come to cope with each local problem by devising the components of a place of activity and the activity contents. Therefore, it is thought that a hypothesis of this study is right.



分析 2-1. 活動発足の契機の分析結果	26
分析 2-2. 定期的な活動のグルーピング	28
分析 2-3. 日常的な活動	29
3-3 分析 3. 活動の場の構成要素と活動内容の関係性の分析結果	32
分析 3-1. 活動場所と活動内容の関係の分析結果	32
分析 3-2. 活動の場の構成要素と活動内容の関係図の作成	34
3-4 事例の紹介	38
【参考文献】	52
第4章 本研究のまとめ	52
4-1 各章のまとめ	52
4-2 本研究の課題と今後の展望	54
4-2-1 調査方法および分析方法の課題	54
4-2-2 今後の展望	55
【参考文献】	57

謝辞

## 図 目 次

図 2-1. 研究の流れ	3
図 2-2. 対象範囲及び電話ヒアリング対象事例選定手順	9
図 2-3. 訪問ヒアリング対象事例選定の流れ	11
図 2-4-1. 兵庫県地図	13
図 2-4-2. 訪問ヒアリング事例分布地図	13
図 2-5. 分析の手順	14
グラフ 3-1. 植栽の保持状況	23
グラフ 3-2. 設備の保持状況	25
グラフ 3-3. 活動発足の契機	26
グラフ 3-4. 活動内容件数	30
グラフ 3-5. 活動場所と活動内容の関係	33
図 3-1. 施設形態と活動内容の関係図 (全体)	34
図 3-2. 施設形態と活動内容の関係図 地域の美化について	35
図 3-3. 施設形態と活動内容の関係図 安全な地域社会づくりについて	36
図 3-4. 施設形態と活動内容の関係図 住民同士のコミュニケーションの推進について	37
図 3-5 施設形態と活動内容の関係図 (緑のこだま)	41
図 3-6. 新開地まちづくりエヌピーオー花壇配置図	45
図 3-7. 施設形態と活動内容の関係図 (新開地まちづくりエヌピーオー)	46
図 3-8. 施設形態と活動内容の関係図 (コミュニティガーデンクラブふるる)	49
図 4-1. 活動の場の構成要素と活動内容の関係図	53

## 表 目 次

表 2-1. プレ調査質問項目	4
表 2-2. プレ調査の日程	5
表 2-3. プレ調査結果	5
表 2-1. コミュニティガーデンとは	7
表 2-4. 電話ヒアリング質問項目	10
表 2-5. 電話ヒアリングによる分類結果	12
表 2-6. ヒアリング調査の日程	17
表 2-7. ヒアリング調査質問項目表	18

表 3-1. 植栽の保持状況	22
表 3-2. 設備の保持状況	24
表 3-3. 活動発足の契機	26
表 3-4. 事例ごとの活動内容	29
表 3-5. 花壇の場所	32
表 3-6. 「緑のこだま」ヒアリング回答	39
表 3-7. 「新開地まちづくりエヌピーオー」ヒアリング回答	43
表 3-8. 「コミュニティガーデンクラブふるる」ヒアリング回答	47

### 写 真 目 次

写真 2-1. 京都みどりクラブの花壇	6
写真 2-2. 新開地まちづくりエヌピーオー キッ ZOO 農園	6
写真 3-1. 花の宝殿の花壇（宝殿駅前スペース）	20
写真 3-2. 淡路公園を楽しもう会の花壇	20
写真 3-3. 500 人委員会板宿会の花壇	21
写真 3-4. AGN 加古川のコンテナ（商店街沿い）	21
写真 3-5. 米田県住フラワーロードのハーブ	23
写真 3-6. アステム芦屋 AB 棟管理組合の果樹	24
写真 3-7. コミュニティガーデンクラブふるるのアーケード	24
写真 3-8. 500 人委員会板宿会の簡易ベンチ	25
写真 3-9. バーベナ淡路の花壇内通路	25
写真 3-10. 花の宝殿の活動場所（活動開始前）	27
写真 3-11. 花の宝殿の活動場所（活動開始後）	27
写真 3-12. 春日町自治会の活動場所（活動開始前）	27
写真 3-13. 春日町自治会の活動場所（活動開始後）	27
写真 3-14. PMO あしやのチップ精製装置（リサイクルの例）	31
写真 3-15. PMO あしや チップ精製の様子（リサイクルの例）	31
写真 3-16. M's ガーデン 学生の花壇活動体験に使われた花壇（ボランティアの例）	31
写真 3-17. 緑のこだま つる性植物を使って作成した植木鉢（クラフト作成の例）	31
写真 3-18. AGN 加古川の駅前花壇	34
写真 3-19. 有野台エコタウンクラブの花壇脇ベンチ	34
写真 3-20. 500 人委員会の花壇内看板	38
写真 3-21. 緑のこだまの花壇 1	40
写真 3-22. 緑のこだまの花壇 2	40

写真 3-23.	「緑のこだま」のベンチ、パラソル、テーブル・・・・・・・・・・	40
写真 3-24.	新開地南公園の花壇・・・・・・・・・・	44
写真 3-25.	地域内企業前のコンテナ・・・・・・・・・・	44
写真 3-26.	キッ ZOO 農園・・・・・・・・・・	44
写真 3-27.	コミュニティガーデンクラブふるるの小屋・・・・・・・・・・	48
写真 3-28.	コミュニティガーデンクラブふるる 小屋の内部・・・・・・・・・・	48

# 第 1 章

## 序論

## 第1章 序論

本章では、まず、本研究の背景について説明し、次に、本研究の目的および意義について述べる。

### 1-1. 研究の背景

近年、オープンスペースが地域のまちづくりに果たす役割や、多面的機能が積極的に認識され始めている。特に地域住民が共同でオープンスペースに緑や花を植えた「コミュニティガーデン」は地域の良好な環境づくりにも貢献することから、その取り組みが盛んになってきている。

1970年代に、アメリカを中心に始まったコミュニティガーデンは、花や木を植え荒れ果てた土地を緑あふれるガーデンに再生するという活動と、その活動が地域住民のコミュニティの場になるという点が注目されてきた。日本では1990年代からコミュニティガーデンへの取り組みが始まり、多岐に渡った創造的なコミュニティガーデンが作られ、その活動は今も広がっている。この活動を通して市民参加の場や地域のコミュニティの輪を広げるという点で、大いに期待されている。

コミュニティガーデンを対象に行った研究では、平田ら<sup>1)</sup>がアメリカにおけるコミュニティガーデンの実態や概念の整理を行った。さらに平田<sup>2),3)</sup>はコミュニティガーデンのリーダー的存在となるガーデナーに関してマスターガーデナープログラムが育成する人材像を明らかにし、プログラム受講者の意識についても研究を行った。また阿部ら<sup>4)</sup>は試験的にコミュニティガーデンを設置し、運営の際の効果と課題を整理した。しかし、これらの研究では、コミュニティガーデンの活動の場の構成要素に注目し、それらの活動の場の構成要素の違いにより生じる活動内容の変化や地域住民の行動に与える波及効果については明らかにされていない。

### 1-2. 研究の目的・意義

以上のような背景を踏まえ、本研究ではコミュニティガーデンと地域住民と活動空間との関わりに着目し、都市部にあるコミュニティガーデンの実態を把握し、コミュニティガーデンにおける活動の場の構成要素と活動内容の関係性を明らかにすることを目的とする。

また本研究により、コミュニティガーデンにおける活動の場の構成要素と活動内容の関係性を明らかにすることで、地域の課題に対応していくことが可能になるのではないかと考えられる。

今後コミュニティガーデンへの取り組みはさらに高まっていくと予想されるため、コミュニティガーデンにおける活動の場の構成要素と活動内容の関係性を明らかにすることによって、コミュニティガーデンの効用を提示し、今後、行政や各自治体が都市緑化と市民参加を軸にした緑あふれるまちづくりを計画する際にコミュニティガーデンの採用を促進

し、またコミュニティガーデンを運営する地域住民にとっても参考になるという点で意義がある。

**【参考文献】**

- 1)平田富士男, 陳小奇: サンフランシスコ市のコミュニティガーデンの実態とガーデンコーディネーターの役割, 都市計画論文, 38(3), 751~756(2003)
- 2)平田富士男: アメリカのマスターガーデナーの人材像とその育成法, ランドスケープ研究, 65(5), 817~822(2002)
- 3)平田富士男: アメリカのマスターガーデナーとそのプログラム受講者の意識と活動, 都市計画論文集, 40(3), 799~804(2005)
- 4)阿部一博, 堀内昭作: コミュニティガーデンの試験的な実施・運営における効果と課題: 日本農業教育学会誌, 34(1), 11~18(2003)

## 第 2 章

### 研究の方法

## 第2章 研究の方法

### 2-1. 研究の手順

本研究の流れを図 2-1 に示す。

本研究では、コミュニティガーデンの施設形態と活動内容の関係性を明らかにするために、まず、研究の手順として対象範囲及び各分析方法の概要を述べる。次に、調査方法として実際に行った調査手順について順に述べる。

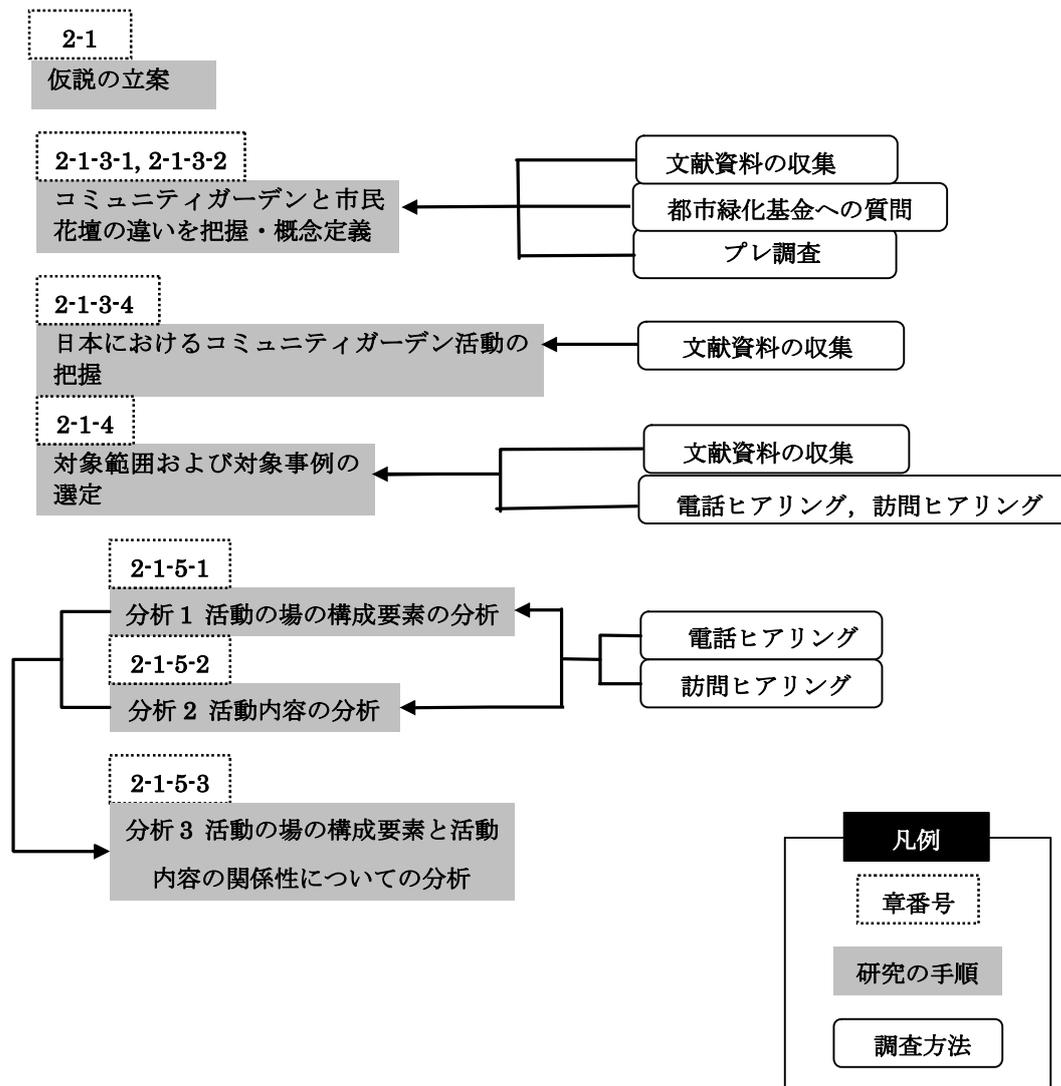


図 2-1. 研究の流れ

### 2-1-1 仮説の立案

文献資料<sup>1)</sup>よりコミュニティガーデンの運営により、景観の保全や防犯・防災の強化などの効果が挙げられている。そこで本研究ではこれらの効果が活動の場の構成要素と活動内容の関係によって発生しているのではないかと考え、また、地域の抱える悩みによって活動の場の構成要素や活動内容を調整していくことが可能であるのではないかと推測した。そこで、「コミュニティガーデンの施設形態に工夫を凝らすことで、活動内容を選定することができ、それによって地域の課題を解決することにつながる」という仮説を立て、以下の調査分析によりこの仮説を検証していくこととする。

### 2-1-2. プレ調査の実施

日本におけるコミュニティガーデン活動の概要を把握したうえで、本研究の枠組みを固めることを目的に、プレ調査として、2005年12月、「京都みどりクラブ」、「新開地まちづくりNPO」への訪問ヒアリングを実施した。この事例の選定理由は、コミュニティガーデンネットワーク（CGN）の関西の登録団体のうち、活動グループの代表者の連絡先を公開していたことと、自らの花壇を「コミュニティガーデン」と謳っていたことにより、概要を把握する上で適していると判断されたからである。実施したヒアリング項目を表2-1に示す。なお、ヒアリング項目は越川秀治著「コミュニティガーデン 市民が進める緑のまちづくり」<sup>1)</sup>を参照した。

表 2-1. プレ調査質問項目

	質問項目	
1	活動について	発足年月
2		オリジナルな点
3		花壇活動について
4		問題点
5	資金作りについて	資金調達の方法
6		資金は足りているか
7	メンバーについて	メンバー数
8		年齢層
9		運営の中心となるメンバーについて
10		メンバーを増やす手段
11		継続的・持続的に活動できるメンバーについて
12		広報は発行しているか
13	活動場所について	活動場所の所有者について
14		所有者にとって、土地を貸すことの利点
15	情報の収集について	活動に必要な情報の管理方法
16	専門家について	メンバーの中に専門家はいるか
17		専門家を招いた活動はしているか
18		園芸の指導はどのように受けているか
19	まちづくりについて	まちづくりに通ずる点

表 2-2 の日程でプレ調査を実施した。両グループの代表者に事前にアポイントメントを取り、各事例の活動場所にて 1 件につき 2 時間程度のヒアリングを行った。

表 2-2. プレ調査の日程

訪問日	時間帯	場所	団体名	対応者
2005/12/03	10:00～12:00	京都市下京区	京都みどりクラブ	柴田さん、メンバーの皆さん
2005/12/09	13:00～15:00	神戸市兵庫区	新開地まちづくり NPO	神野さん

この 2 事例へのプレ調査により、表 2-3 を得た。

表 2-3. プレ調査結果

質問項目		京都みどりクラブ	新開地まちづくりエヌピーオー
活動について	活動内容	ガーデンの維持管理、イベントへの参加、デイケアセンターへの出張、子供たちの体験受け入れ	ガーデンの維持管理、キッズ農園、交流会、見学会、広報発行
	オリジナルな点	福祉的な活動を通じて、心のふれあいを大切にしている	震災後に新旧の住人が交流できる場
	問題点	堆肥の使い方など技術面	猫や犬の害
資金づくりに ついて	調達方法	メンバーの会員費、企業からの助成	神戸市の「街のデザイン費」の一部
メンバーについて	人数	60 人	15 人
	年齢層	50～60 歳	50～70 歳
	メンバー確保のための努力	口コミ、広報で募集	広報で募集
	継続的に活動できるメンバー数	30 人	15 人
活動場所について	土地の所有者	京都市	神戸市 (2 箇所)、当団体 (1 箇所)、個人 (1 箇所)
専門家について	指導の受け方	講演会に参加、緑化協会の園芸家の先生に相談	街のコンサルタント担当者、花まちセンター担当者、園芸学校の元教師、の 3 人からアドバイスをもらう
まちづくりに ついて	まちづくりに通じている点	福祉活動への参加、人脈のひろがり	まちの緑化、まちのアピール、人脈のひろがり



写真 2-1 (左). 京都みどりクラブの花壇

写真 2-2 (右). 新開地まちづくりエヌピーオー キッ ZOO 農園<sup>2)</sup>

このプレ調査より、コミュニティガーデン活動を実際に見学し、表 2-3 のような情報を得ることができたので、コミュニティガーデンの概念を把握することができ、概念定義に繋がった。また、兵庫県内ではコミュニティガーデン活動が盛んだという情報を得ることができたので、対象範囲と対象事例選定の際にも役立った。

### 2-1-3. コミュニティガーデンについて

#### 2-1-3-1. コミュニティガーデンと市民花壇の違い

- (1) インターネット上で、「市民花壇」と表現されており、且つその活動内容が紹介されている事例<sup>3),4),5)</sup>の活動内容の調査に加えて、平成 17 年に神戸市で開催された「市民花壇コンクール」<sup>6)</sup>について文献資料から市民花壇に関する情報を集めた。
- (2) プレヒアリングとして「コミュニティガーデン」と掲げて活動している「京都みどりクラブ」<sup>7)</sup>・「新開地まちづくりエヌピーオー」<sup>8)</sup>の 2 つの活動グループへのヒアリングにより整理した活動内容を(1)で得た情報と照らし合わせた。
- (3) 2006 年 3 月末、コミュニティガーデンネットワークを支援・管理している都市緑化基金<sup>9)</sup>の担当者（小松さん）にメールにてヒアリングを行い、二者の違いについて意見を求めた。
- (4) 越川秀治著、「コミュニティガーデン 市民がすすめる緑のまちづくり」より、表 2-4<sup>10)</sup>を参考にし、コミュニティガーデンの概念を把握した。

上記(1)～(4)の 4 つの方法から市民花壇とコミュニティガーデンの違いを整理した。その結果、市民花壇は行政によって活動が管理されているケースが多いということがわかった。一方、コミュニティガーデンは地域住民が主体的に活動を管理し、活動の自由度も高いという傾向が見られた。具体的には、コミュニティガーデンは市民花壇に比べて、植栽を自由に選ぶことができる、活動場所を指定することができる、花壇活動以外にも福祉・環境教育・公共施設の管理・地域行事の運営等の活動を行っている事例が多く見られた。

2-1-3-2. コミュニティガーデンの概念定義

2-1-3-1 より、コミュニティガーデンと市民花壇の概念を定義した。

コミュニティガーデン・・・管理主体および作業主体は地域住民。地域住民が主体的にメンバーを募り、一部指定された活動場所で活動する。地域住民が活動内容を自ら設定し、花壇活動を初めとする多様な活動に取り組む。

市民花壇・・・・・・・・・・管理主体は各自治体、作業主体は地域住民が中心となる。自治体が定める活動場所、メンバー、植栽の枠内で、花壇活動を行う。

表 2-4. コミュニティガーデンとは<sup>10)</sup>

コミュニティガーデンとは何か	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 様々な人々が庭として共用できる緑地空間</li> <li>② 地域社会へのさんかのきっかけづくりの場</li> <li>③ 地域環境や地域問題について学び、体験できる生きた社会教育の場</li> <li>④ 地域の庭づくりから始まる緑のまちづくり活動</li> <li>⑤ コミュニティ再生のための市民の草の根運動</li> </ul>
求められる背景	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 環境問題への意識の高まり</li> <li>② 少子高齢化社会への関り方の模索</li> <li>③ コミュニティのあり方への不安と危惧</li> <li>④ 成熟化する市民社会への期待</li> <li>⑤ 複雑化、重層化する都市インフラへの反省</li> <li>⑥ 国際化社会（多文化社会）への理解の深まり</li> </ul>
コミュニティガーデンの魅力	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 高度な知識や技術がなくても参加できる</li> <li>② 特別な場所や資金がなくても開始できる</li> <li>③ どんな人でも活動に関われる</li> <li>④ 楽しみながら時間をかけて行える</li> <li>⑤ 敷地の用途は自由度が高い</li> <li>⑥ 参加者主体で管理運営ができる</li> <li>⑦ みんなで成果を分かちあえる</li> <li>⑧ 庭づくり以外でも活躍の場が多い</li> <li>⑨ 作業を通してコミュニケーションの輪が広がる</li> <li>⑩ 環境問題やまちづくりへの関心が高まる</li> </ul>
緑のまちづくりとしての効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 自然環境の保護、維持、復元</li> <li>② 微気象の調節、緩和</li> <li>③ 循環型地域社会の促進</li> <li>④ 景観、景域、修景の保全、調整</li> <li>⑤ 防犯、防災の強化</li> <li>⑥ 騒音、眩光の低減</li> <li>⑦ 潤い、アメニティの創出</li> <li>⑧ シンボル、ランドマークの形成</li> <li>⑨ 地域景観の個性化</li> </ul>

### 2-1-3-3. 活動の場の構成要素および活動内容の概念定義

本研究内で使用する「活動の場の構成要素」および「活動内容」という用語について解説する。

#### (1) 活動の場の構成要素

コミュニティガーデンの「花壇の配置状況」および「施設内容」をまとめて言ったもの。

##### (1)-1 花壇の配置状況

コミュニティガーデン活動範囲内における花壇の分布の仕方。花壇の様式や個数によっていくつかのタイプに分けられる。

##### (1)-2 施設内容

コミュニティガーデン内にある施設の詳細。ベンチ・テーブルなどの設備や植栽を指す。

#### (2) 活動内容

コミュニティガーデン活動団体が行う活動。花壇活動等の日常的な活動や、講習会等の定期的な活動も含む。また、活動メンバー以外の地域住民が加わり、コミュニティガーデンを利用して行う場合の活動も含む。

### 2-1-3-4. 日本におけるコミュニティガーデン活動の取り組み

1990年頃から日本でもコミュニティガーデン活動が見られるようになった。

地域の自治体による市民花壇と呼ばれるものは古くから活動されていたが、コミュニティガーデンと呼ばれる活動は、1995年横浜の都市公園でのチューリップの球根植え活動ではないかと言われている。都市部でのコミュニティガーデン活動は地域景観の改善だけでなく、自然環境の保護、防犯の強化、微気象の調節、シンボルの形成等の効果が期待されており、作業を通じてコミュニケーションの輪が広がるといった点が大きな魅力として、その活動が注目されている。(10) 参照)

とくに兵庫県では1995年の阪神淡路大震災後、復興を目指して緑豊かなまちづくりを目標とする自治体が多く、地域の緑化活動が積極的に行われた。また、2000年に開催された淡路花博「ジャパンフローラ 2000」や2006年に開催された「のじぎく兵庫国体」等をきっかけに、まちの緑化活動を推進しており、近年、全国の中でもコミュニティガーデン活動に対して積極的な姿勢が見られている。

## 2-1-4. 対象範囲および事例の選定

### 2-1-4-1. 対象範囲と電話ヒアリング対象事例の選定

対象範囲及び電話ヒアリング対象事例の選定手順の流れを図 2-2 に示す。

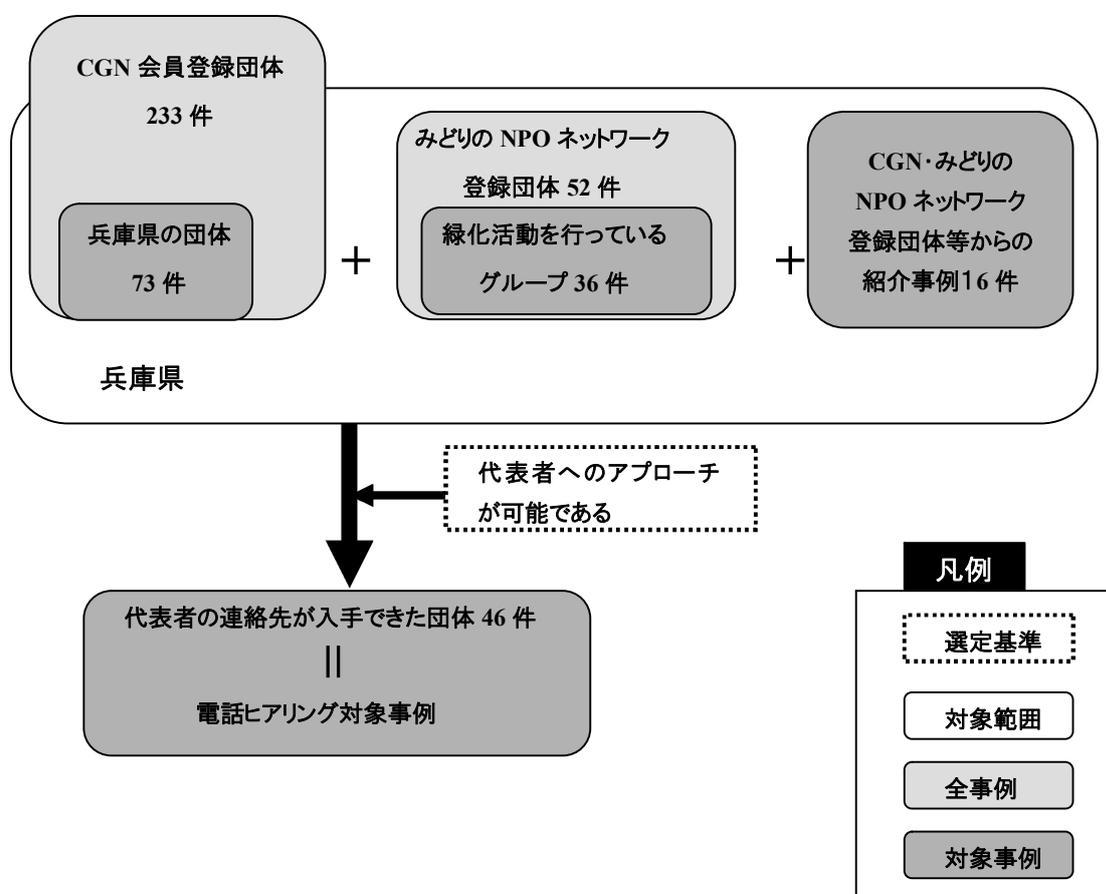


図 2-2. 対象範囲及び電話ヒアリング対象事例選定手順

都市緑化基金<sup>11)</sup>が運営する「コミュニティガーデンネットワーク（通称 CGN）」<sup>12)</sup>のネットワーク会員登録団体 233 件のうち、兵庫県の団体が 73 件と最も多かった。また、兵庫県では 1995 年に発生した阪神淡路大震災後の復興活動の一環でまちの緑化活動が積極的に行われていた点、2000 年の淡路花博記念事業により花いっぱいのみちづくりを目指してきた点、等の背景も踏まえ、本研究の調査時期が 2006 年開催の「のじぎく兵庫国体」に向けて緑化活動がより一層推進されている時期でもあったので、全都道府県の中で兵庫県がコミュニティガーデン活動に対して最も力を入れている自治体であると判断し、兵庫県を対象範囲と定めた。

「CGN」会員登録団体のうち兵庫県の団体 73 件に加えて、兵庫県内の緑化活動グループの情報交換の場となっている、「みどりの NPO ネットワーク」<sup>12)</sup>に登録されている 52 件のうち、緑化活動を行っている団体 36 件、合計 109 件の活動団体を対象事例とした。

次にこの 109 件の対象事例に対して、本研究で定めたコミュニティガーデンの定義(2-1-2-2 参照)に当てはまる事例の選定を行う。まず、「CGN」と「みどりのNPO ネットワーク」から、対象事例である団体の代表者の連絡先を入手する作業を行った。しかしコミュニティガーデン活動団体では私人を代表者に行っている場合が多いため、個人情報保護法の施行により、私人の連絡先を入手することが困難であった。よってネット検索に加えて都市緑化基金の担当者(小松氏)の協力を得て、「CGN」会員登録団体からは 10 件、「みどりのNPO ネットワーク」会員登録団体からは 20 件、また「CGN」・「みどりのNPO ネットワーク」会員登録団体の紹介により 15 件の事例を得、さらにコミュニティガーデン活動に詳しい兵庫県立淡路景観園芸学校教授の平田氏の紹介により 1 件の事例を得て、合計 46 件の事例に対してアプローチすることとした。ここまでで得た 46 事例に対し、電話ヒアリングを行い、その活動内容等を調査し、本研究で定めたコミュニティガーデンの定義に当てはまる事例の振り分け作業を行った。電話ヒアリング時の質問項目を表 2-5 に示す。

表 2-5. 電話ヒアリング質問項目

	質問項目
1	花壇活動について
2	オリジナルな点
3	活動の頻度
4	年齢層
5	参加人数
6	活動場所や植栽は自分たちで設定できるか
7	植栽の内容(花、農作物など)
8	資金調達の方法
9	問題点
10	花壇活動以外の活動について

### 2-1-4-2. 訪問ヒアリング対象事例の選定

電話ヒアリング時に行った、訪問ヒアリング対象事例選定の流れを図 2-3 に示す。

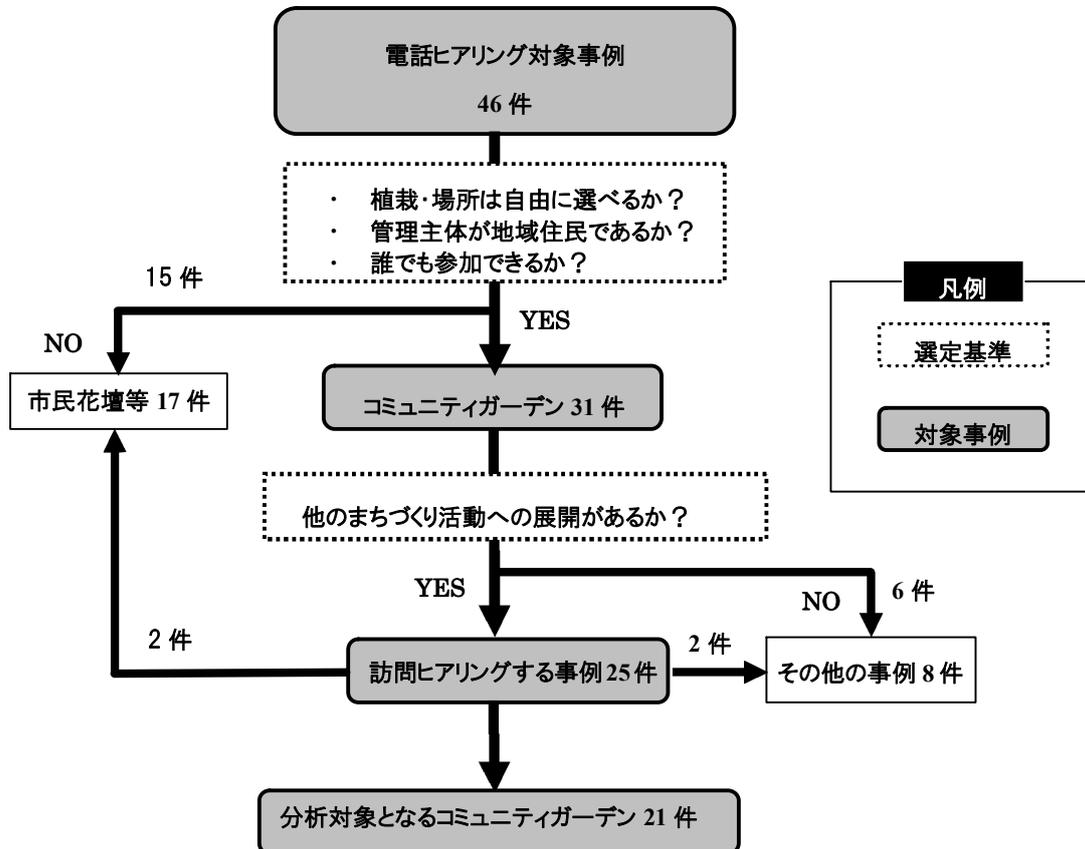


図 2-3. 訪問ヒアリング対象事例選定の流れ

対象事例がコミュニティガーデンの定義（2-1-2-2 参照）に当てはまるかどうかの評価基準として、定義に含まれる「植栽・場所は自由に選べるか」、「管理主体は地域住民であるか」「誰でも参加できるか」の3項目を満たす場合はコミュニティガーデン、これを満たさない場合は市民花壇等と位置づける。さらに「他のまちづくり活動への展開が見られるか」という項目を満たす場合は訪問ヒアリングする事例とし、これを満たさない場合はそれ以外の事例と位置づける。

この選定作業により、46 件の事例を選定し、コミュニティガーデンであり、尚且つ訪問ヒアリングする事例に当てはまったのは 25 件であった。この訪問ヒアリングする事例に選定された事例 25 件について訪問ヒアリングを行ったが、実際に訪問して活動についてヒアリングすると、コミュニティガーデンの定義に当てはまらず、市民花壇やその他の事例に当てはまると思われる事例が 4 件あった。よって、それら 4 件を省いた 21 事例を分析対象となるコミュニティガーデンとした。この振り分け作業により得られた結果を表 2-6 に示す。

表 2-6. 電話ヒアリングによる分類結果

電話ヒアリング対象事例（46件）	市民花壇等（17件）	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 芦屋市立精道中学校</li> <li>2. サンフラワーフレンズ 21</li> <li>3. 花ネット神戸</li> <li>4. 緑化コミュニティ四季</li> <li>5. 雲雀丘自治会環境部会</li> <li>6. みどりの香</li> <li>7. 淡路花博記念事業協会</li> <li>8. 宝塚オープンガーデンの会</li> <li>9. 赤穂森のクラブ</li> <li>10. 宝塚山本花とみどりのまちづくりワークショップ</li> <li>11. 尼崎市公園課</li> <li>12. ひょうご森の倶楽部</li> <li>13. 櫻守の会</li> <li>14. 花と緑のまち推進センター</li> <li>15. 神戸西助け合いネットワーク</li> <li>16. 神戸たるみ恋人岬ビオトープの会</li> <li>17. 美緑化クラブ</li> </ol>
	コミュニティガーデン（29件）	<p>他のまちづくり活動への展開あり ↓ 詳細調査する事例（21件）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 西畑フラワーロードの会</li> <li>2. 緑のこだま</li> <li>3. アステム芦屋 AB 棟管理組合園芸クラブ</li> <li>4. M's ガーデン</li> <li>5. レスタージュ芦屋グリーンクラブ</li> <li>6. PMO あしや</li> <li>7. コミュニティガーデンクラブふるる</li> <li>8. 花の宝殿</li> <li>9. 米田県住フラワーロード</li> <li>10. 有野台エコタウンクラブ</li> <li>11. 淡路公園を楽しもう会</li> <li>12. 春日町自治会</li> <li>13. コープ神戸西ローズマリー</li> <li>14. コープ大久保ハナミズキ</li> <li>15. 新開地まちづくりエヌピーオー</li> <li>16. 北須磨団地公園管理会</li> <li>17. 500人委員会板宿会</li> <li>18. 浜の宮公園を愛する会</li> <li>19. NPO 法人花と緑のまちづくり高砂</li> <li>20. AGN 加古川</li> <li>21. バーベナ淡路</li> </ol>
		<p>他のまちづくり活動への展開なし ↓ その他の事例（8件）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 奥須磨公園にトンボを育てる会</li> <li>2. グリーンマントの会</li> <li>3. コープ神戸花みどりネット</li> <li>4. あかねが丘学園</li> <li>5. 神戸市公園緑化協会</li> <li>6. 花みどり市民ネットワーク</li> <li>7. 塚口コミュニティガーデン</li> <li>8. ベル薔薇クラブ</li> </ol>

次に、訪問ヒアリングする事例の分布を示した地図を図 2-4-1、図 2-4-2 に示す。

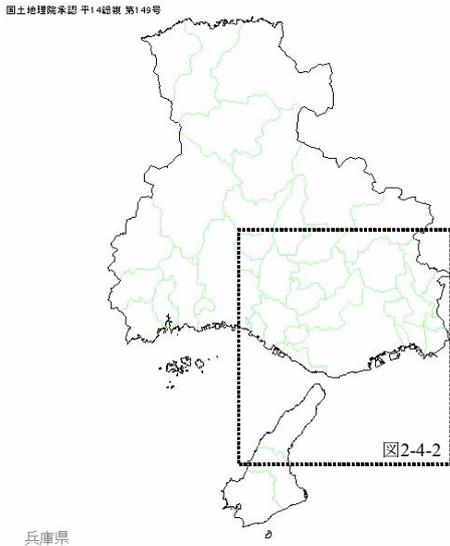


図 2-4-1. 兵庫県地図<sup>13)</sup>

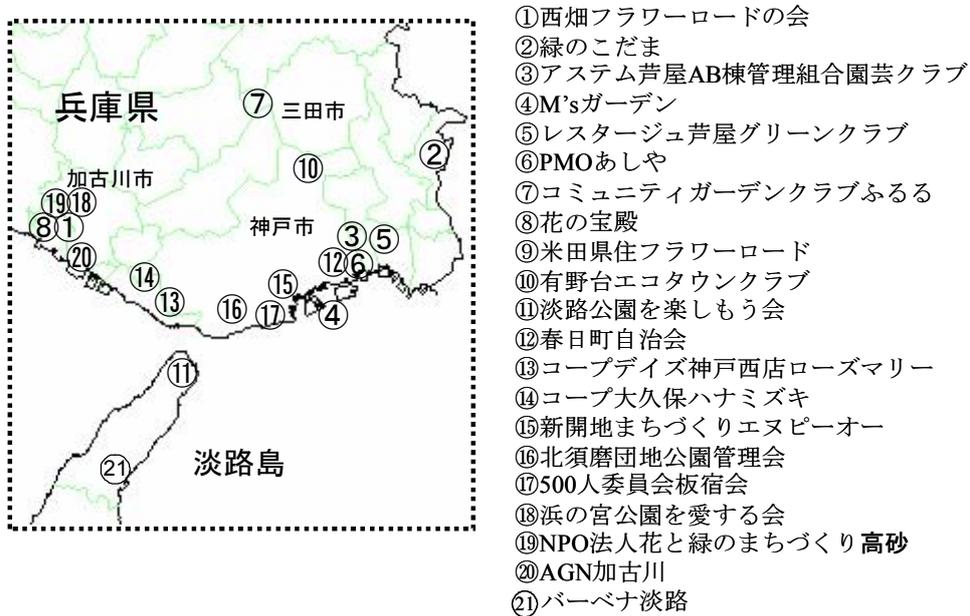


図 2-4-2. 訪問ヒアリング事例分布地図<sup>13)</sup>

図 2-4-1 および図 3-4-2 より、訪問ヒアリング対象事例は兵庫県内でも南部の都市部に多いことがわかる。また、淡路島では、2000 年に開催された淡路花博「ジャパンフローラ 2000」の影響もあり街の中に花や緑を積極的に取り入れているため、事例の分布が見られた。

### 2-1-5. 分析の枠組み

本研究における分析の流れを図 2-5 に示す。

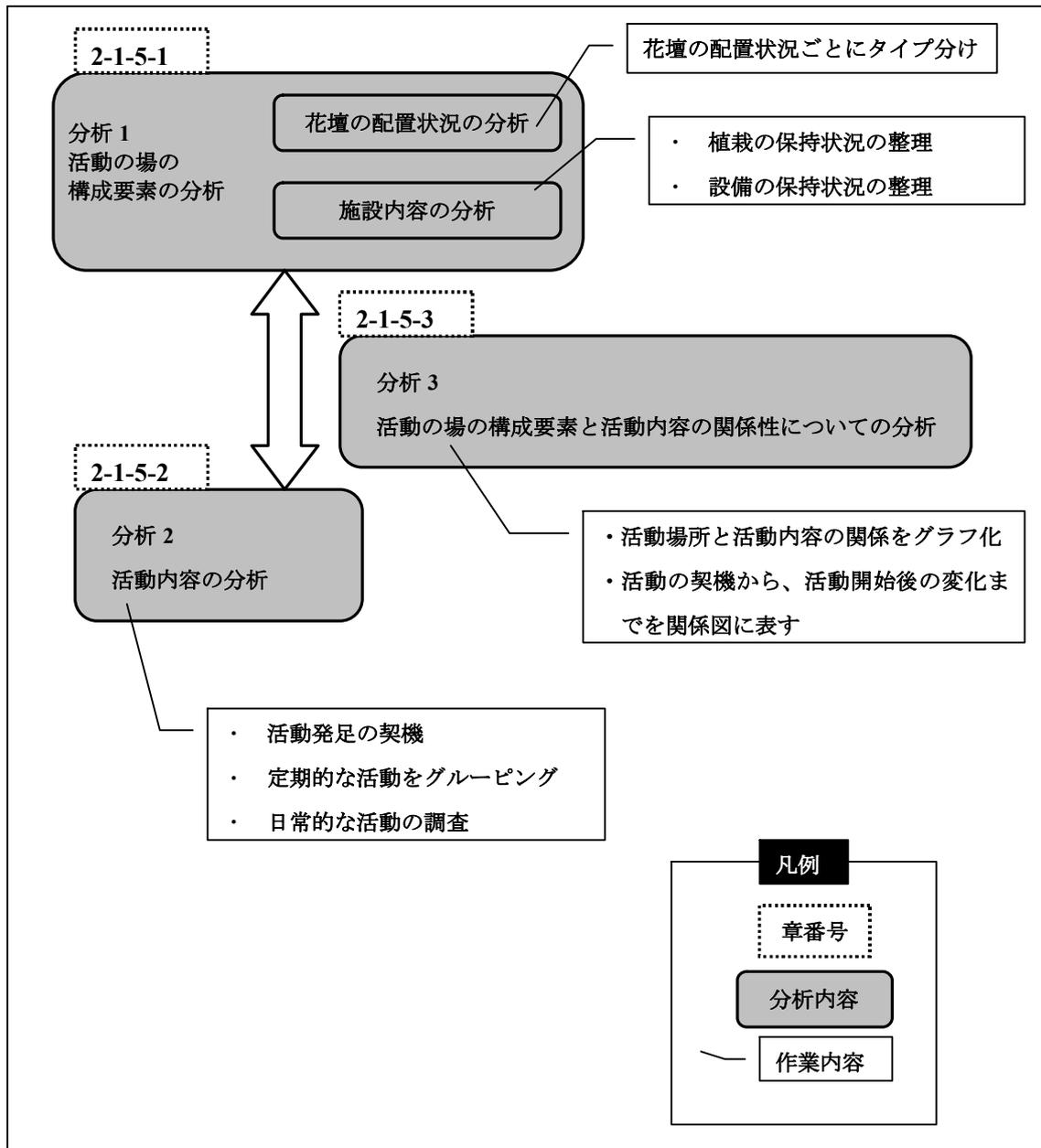


図 2-5. 分析の手順

#### 2-1-5-1. 分析 1：活動の場の構成要素の分析

##### 分析 1-1：花壇の配置状況の分析

分析 1-1 として、コミュニティガーデン活動範囲内における花壇の分布の仕方、花壇の様式、個数、規模等に着目し、施設タイプを整理し、いくつかのタイプに分類する作業を行った。

##### 分析 1-2：施設内容の分析

分析 1-2 として、コミュニティガーデン内にある施設の詳細について分析した。まず、コミュニティガーデン内の植栽の保持状況を事例ごとに整理した。次に、コミュニティガーデン内の設備の保持状況を事例ごとに整理したうえで、それらの設備が既存（公共）のものであるか、あるいは活動メンバーによって制作されたものであるかを整理した。

#### 2-1-5-2. 分析 2：活動内容の分析

分析 2 として、コミュニティガーデン活動グループが行う活動内容について分析した。

まず、活動発足の契機を活動グループごとに整理した。次に、定期的に行われる活動を列挙し、KJ法を用いていくつかのグループにグルーピングした。それによって得られたグループと、花壇活動等の日常的な活動について、事例ごとに整理した。次に、整理された活動内容が、地域住民も参加できるものであるか、コミュニティガーデンに関連を持つものであるかを表にまとめた。

#### 2-1-5-3. 分析 3：活動の場の構成要素と活動内容の関係性についての分析

まず、活動場所と活動内容の関係をグラフ化し、活動場所によって活動内容に特色が見られるかを分析した。

次に、分析 1-1 で分類された施設のタイプ、分析 1-2 で事例ごとに整理した施設内容、分析 2 により整理された活動内容、の 3 つを総括し、事例ごとに活動発足の契機から活動スタート後の変化までを表に整理し、施設内容と活動内容の関係性を明らかにした。

## 2-2. 調査方法

### 2-2-1. 文献資料の収集

海外及び日本のコミュニティガーデン活動についての知識を得、コミュニティガーデンの概念を把握することを目的に、文献資料の収集を行った。

主に都市計画論文集<sup>14)</sup>、ランドスケープ研究<sup>15)</sup>、都市問題研究<sup>16)</sup>等を参照した。

#### 2-2-2. 電話ヒアリング

2-1-3-1 の手順で選定した事例 46 件に対して電話ヒアリングを実施した(2006 年 5 月～7 月実施・1 件につき 15～20 分)。電話ヒアリング時の質問項目は表 2-5 の通り。次に、2-1-3-2 の手順で電話ヒアリングの回答により、訪問ヒアリング対象事例の選定を行った。

#### 2-2-3. 訪問ヒアリング・参与観察

表 3-6 の日程で訪問ヒアリング調査を実施した(プレヒアリング 2005 年 12 月・本ヒアリング 2006 年 7 月～10 月実施)。各グループの代表者にアポイントメントを取り、各事例の活動場所及び代表者の自宅にて 1 件につき 1 時間半～2 時間のヒアリングを行った。代表者間においてコメントに差が生じないように、表 2-7 の質問項目表に従って筆者が質問し、代表者に回答してもらう形式を取った。なお、質問項目はなるべく事前に FAX・E メール等で代表者に通知した。

表 2-6 . ヒアリング調査の日程

	訪問日	時間帯	場所	団体名	対応者
1	2005/07/04	14:00～15:30	近江八幡市	小舟木エコ村・百菜劇場	高階さん、高田さん
2	2006/07/06	14:00～15:30	宝塚市雲雀丘	雲雀丘自治会環境部会	熊澤さん
3	2006/07/06	15:30～16:30	宝塚市長尾台	緑のこだま	松永さん
4	2006/07/17	10:00～14:00	明石市大久保町	コープ大久保ハナミズキ	福井さん、メンバーの皆さん
5	2006/07/29	9:30～12:00	神戸市中央区	M's ガーデン	後藤さん、メンバーの皆さん
6	2006/07/29	13:30～15:30	神戸市長田区	美緑化クラブ	柴垣さん
7	2006/08/05	10:00～12:00	淡路市岩屋	淡路公園を楽しもう会	長谷川さん、メンバーの皆さん
8	2006/08/10	11:00～12:00	芦屋市陽光町	PMO あしや	松尾さん
9	2006/08/10	12:00～13:00	芦屋市若葉町	アステム芦屋 AB 棟管理組合 園芸クラブ	松尾さん
10	2006/08/11	9:30～12:00	尼崎市塚口町	尼崎市緑化協会	田上さん
11	2006/08/12	10:00～12:00	加古川市加古川駅前	AGN 加古川	乗田さん、メンバーの皆さん
12	2006/08/22	13:00～15:00	神戸市須磨区	北須磨団地公園管理会	河合さん
13	2006/08/22	13:00～15:00	神戸市須磨区	奥須磨公園にトンボを育てる会	河合さん
14	2006/08/23	16:00～18:00	三田市学園	コミュニティガーデンクラブ ふるる	神野さん、メンバーの皆さん
15	2006/08/26	14:00～15:30	高砂市西畑	西畑フラワーロードの会	本白水さん
16	2006/09/02	11:00～13:00	神戸市北区	有野台エコタウンクラブ	牛込さん、余田さん
17	2006/09/07	10:00～11:30	高砂市	NPO法人 花と緑のまちづくり高砂	浅原さん、メンバーの皆さん
18	2006/09/07	12:00～14:00	高砂市神爪	花の宝殿	高田さん、加藤さん
19	2006/09/07	12:00～14:00	高砂市米田町	米田県住フラワーロード	高田さん、加藤さん
20	2006/09/09	9:00～12:00	淡路市生穂	バーベナ淡路	上田さん、メンバーの皆さん
21	2006/09/12	9:30～13:00	神戸市西区	コープデイズ神戸西店 ローズマリー	岡本さん、メンバーの皆さん
22	2006/09/21	10:00～12:00	神戸市須磨区	500人委員会板宿会	倉島さん、メンバーの皆さん
23	2006/10/10	13:00～15:00	加古川市尾上町	浜の宮公園を愛する会	倉地さん、細川さん
24	2006/10/26	14:00～16:00	芦屋市春日町	春日町自治会	円満堂さん
25	2006/10/30	13:00～15:00	芦屋市朝日が丘町	レスタージュ芦屋グリーンクラブ	塩谷さん

表 2-7. ヒアリング調査質問項目表

質問項目				
活動内容	管理・運営について	どんな人がメンバーか		
		年齢層		
		人数（昔から変動してないか）		
		いつ発足したか		
		どのような活動か		
		活動発足のきっかけ		
		活動の頻度		
		資金	行政からの助成金（頻度、金額）	
			助成物資（頻度、金額）	
			会費（金額、人数）	
	その他			
	担当の割り振りはあるか（発足時から同じか、理由）			
	花壇以外の活動	どのような活動か		
		頻度		
集まるメンバー数				
活動の場の構成要素	施設タイプ	活動場所	面積・規模	
			所有者	
			その土地を選んだ理由	
		花壇の分布の仕方	花壇の分布の仕方	
			発足時から変わらないか	
			なぜその分布に至ったか	
	施設内容	植栽	植栽の内容	
			なぜその植栽になったか	
		設備	施設内容	
			発案者	
			利用頻度	
			利用者	
			いつ利用するか（日常、イベント時）	
その他	問題点	問題点はあるか		
		解決のための努力		
	今後の展開	目標など（あれば）		
		欲しい施設（あれば）		

## 【参考文献】

- 1)越川秀治：コミュニティガーデン 市民が進める緑のまちづくり，p60表2・1，学芸出版社(2002)
- 2)特定非営利活動法人 新開地まちづくりエヌピーオー：ガーデン紹介，  
<http://www.shinkaichi.or.jp/npo/gardening/concept.html#02>，2006-12-12
- 3)福岡県宗像市・市民花壇，<<http://www.city.munakata.fukuoka.jp/pdf/madoguchi/>>，2006/02/22
- 4)神戸市市民花壇・咲花道ガーデン，<[http://www.michi-net.com/2001/model/092hyogo\\_garden.html](http://www.michi-net.com/2001/model/092hyogo_garden.html)>，  
2006/02/22
- 5)千葉県我孫子市・市民花壇，<<http://www.city.abiko.chiba.jp/index.cfm/12,353,51,36,html>>，2006/02/22
- 6)平成17年度 神戸市市民花壇コンクール概要，  
<<http://www.kobe-park.or.jp/hanamidori/shiminkadan/17gaiyo.pdf>>，2006/02/22
- 7)ひと・まち交流館京都 団体・活動情報サーチ：京都みどりクラブ，  
<[http://v.hitomachi-kyoto.jp/collective/infoco\\_view.rbx?cd=316](http://v.hitomachi-kyoto.jp/collective/infoco_view.rbx?cd=316)>，2005/11/20
- 8)新開地まちづくりエヌピーオー，<<http://www.shinkaichi.or.jp/npo/aboutus/index.html>>，2005/11/20
- 9)越川秀治：コミュニティガーデン 市民がすすめる緑のまちづくり，p60表2・1より一部抜粋，学芸出版社(2002)
- 10)都市緑化基金，<<http://www.urban-green.or.jp/home/home.html>>，2005/11
- 11)コミュニティガーデンネットワーク，<<http://www.g-cgn.jp/index.html>>，2005/11
- 12)みどりのNPOネットワーク，<<http://www.midori-npo.net/syushi.htm>>，2006/02
- 13)白地図 KenMap，<<http://www5b.biglobe.ne.jp/~t-kamada/CBuilder/kenmap.htm>>
- 14)都市計画論文集，社団法人 日本都市計画学会
- 15)ランドスケープ研究，社団法人 日本造園学会
- 16)都市問題研究，都市問題研究会

## 第3章

コミュニティガーデンにおける

活動の場の構成要素と活動内容の関係

についての分析結果

### 第3章 コミュニティガーデンにおける活動の場の構成要素と活動内容の関係についての分析結果

この章では、第2章の分析1～3によって得られた結果を記す。

#### 3-1. 分析1：活動の場の構成要素の分析結果

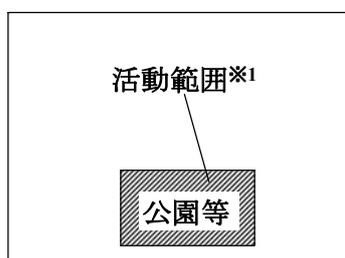
訪問ヒアリングを実施した事例21件の活動の場の構成要素に着目すると、それぞれのグループが保持している花壇の個数や、花壇の分布の仕方、また規模等に特徴があり、大きく4種類のタイプに分類することができた。

##### 分析1-1：花壇の配置状況の分析

まず、花壇の配置状況をその特徴ごとにいくつかのタイプに整理した結果を述べる。

##### [1]コア1ヶ所型（12件）

活動範囲の中にコアとなる花壇を1ヶ所持つタイプ。



##### [1]-1 1000 m<sup>2</sup>以上（4件）

- ・ M's ガーデン（4000 m<sup>2</sup> ※<sub>2</sub>約1ha）
- ・ 西畑フラワーロードの会（2400 m<sup>2</sup>）
- ・ 緑のこだま（1000 m<sup>2</sup>）
- ・ アステム芦屋 AB 棟管理組合園芸クラブ（1000 m<sup>2</sup>）

※<sub>1</sub>各事例の花壇面積は（ ）内に示す

※<sub>2</sub>公園全体の面積

##### [1]-2 201 m<sup>2</sup>～1000 m<sup>2</sup>未満（4件）

- ・ PMO あしや（700 m<sup>2</sup> ※<sub>2</sub>10ha）
- ・ コミュニティガーデンクラブふるる（350 m<sup>2</sup>）
- ・ 花の宝殿（250 m<sup>2</sup>）
- ・ 米田県住フラワーロード（250 m<sup>2</sup>）

##### [1]-3 200 m<sup>2</sup>以下（4件）

- ・ レスタージュ芦屋グリーンクラブ（約112 m<sup>2</sup>）
- ・ 有野台エコタウンクラブ（100 m<sup>2</sup>）
- ・ 淡路公園を楽しもう会（45 m<sup>2</sup> ※<sub>2</sub>1500ha）
- ・ 春日町自治会（約45 m<sup>2</sup> ※<sub>2</sub>3000 m<sup>2</sup>）

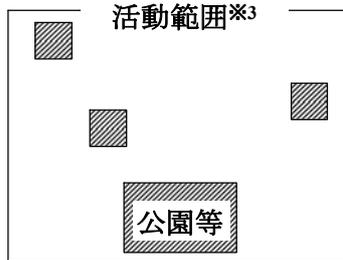


写真3-1（左）. 花の宝殿の花壇（宝殿駅前スペース）

写真3-2（右）. 淡路公園を楽しもう会の花壇（淡路公園内）

[2]コア+サブ数ヵ所型（6件）

活動範囲の中にコアとなる花壇1ヶ所と、サブとなる花壇を数ヵ所持つタイプ。



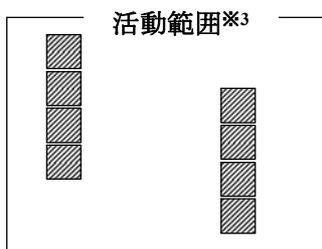
- ・ コープデイズ神戸西店ローズマリー（約 3 km<sup>2</sup>）
  - ・ コープ大久保ハナミズキ（約 3 km<sup>2</sup>）
  - ・ 新開地まちづくりエヌピーオー（約 1 km<sup>2</sup>）
  - ・ 北須磨団地公園管理会（約 1 km<sup>2</sup>）
  - ・ 500人委員会板宿会（約 0.4 km<sup>2</sup>）
  - ・ 浜の宮公園を愛する会
- ※<sub>3</sub> 各事例の活動範囲は（ ）内に示す



写真 3-3. 500人委員会板宿会の花壇（銀行前スペース）

[3]沿道型（2件）

活動範囲内の沿道または商店街沿いに連なった花壇を持つタイプ。



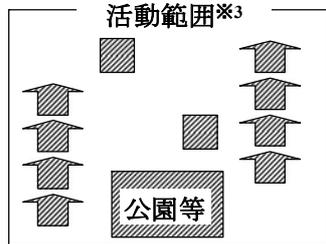
- ・ NPO 法人花と緑のまちづくり高砂（2km 沿い）
  - ・ AGN 加古川（450m 沿い）
- ※<sub>3</sub> 各事例の活動範囲は（ ）内に示す



写真 3-4. AGN 加古川のコンテナ（商店街沿い）

[4]コア+サブ数カ所+オープンガーデン型 (1件)

活動範囲の中にコアとなる花壇1ヶ所と、サブとなる花壇を数カ所、さらにオープンガーデン※4を持つタイプ。



・バーベナ淡路 (約 400km<sup>2</sup>)

※3 各事例の活動範囲は ( ) 内に示す

※4 オープンガーデン…個人の家の庭をチャリティーとして公開し一般の人に見てもらふもの

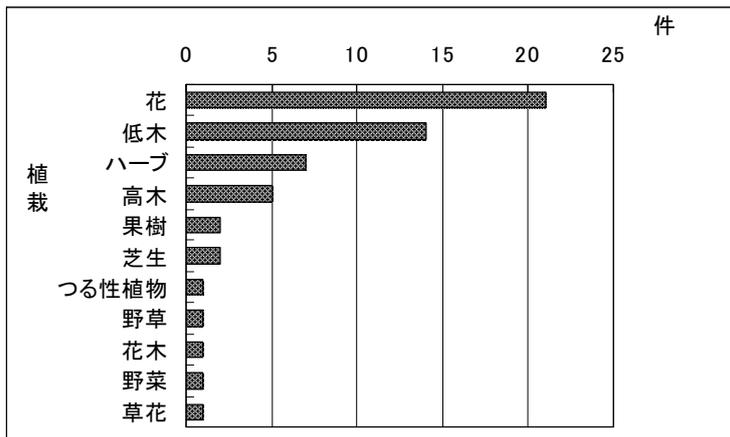
分析 1-2 : 施設内容の分析結果

まず、コミュニティガーデン内の植栽の保持状況を事例ごとに整理した結果、表 3-1 を得、それをグラフ化しグラフ 3-1 に示した。

表 3-1. 植栽の保持状況

	花壇の配置状況 [1]											[2]					[3]	[4]				
	[1]-1			[1]-2				[1]-3														
	西畑 フラワー ロードの会	緑のこだま	アステム 芦屋	M s ガーデン	P M O あしや	C G クラブ ふるる	花の 宝殿	米田 県住 フラワー ロード	レス ター ジュ 芦屋	有野 台エ コタ ウン クラブ	淡路 公園 を楽 しもう 会	春日 町自 治会	コー プデ イズ 神戸 西	コー プ大 久保	新開 地エ ヌピ ーオー	北須 磨団 地公 園管 理会	500 人委 員会 板宿 会	浜の 宮公 園を 愛す る会	花と 緑の まち づく り高 砂	AGN 加古 川	バー ベナ 淡路	
花	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
低木	○	○	○		○		○	○	○	○		○	○			○	○			○	○	○
ハーブ		○	○	○		○		○	○							○						
果樹			○							○												
芝生			○		○																	
高木		○					○		○		○						○					
つる性植物						○																
野草			○																			
花木																						○
野菜															○							
草花																						○

※表中のグループ名は一部略称とし、以下の表中でもこの表記とする。



グラフ 3-1. 植栽の保持状況

表 3-1 およびグラフ 3-1 より、21 事例すべてのグループが植栽に花を採用しており、その理由として、四季が感じられるように、植え替えを理由にメンバーが顔を合わせる機会があるため、メンバー自身が楽しむため、等の要素がヒアリングによりわかった。次に多かった低木は 14 事例あり、採用理由は手入れが楽なためであった。またハーブが 7 事例見られ、お茶会の時にハーブティーとして使用されていた。加古川市「米田県住フラワーロード」では、ハーブの香りによる地域住民の癒しを目的にハーブを採用していた。



写真 3-5. 米田県住フラワーロードのハーブ

さらに、特徴的な事例として、芦屋市「アステム芦屋 AB 棟管理組合」では、地域の子供達が様々な種類の果樹に実のなる様子を観察したり、自由に実を採って食べたりできるように数種類の果樹を採用していた。また、三田市「コミュニティガーデンクラブふるる」では、つる性植物を採用し、アーケードに巻きつけ、その下にベンチを置いて憩いの場を作り出している事例があった。アーケードにつる性植物を這わせることで、日よけにもなり、またおしゃれな演出として活動メンバーの集いの場になっていた。



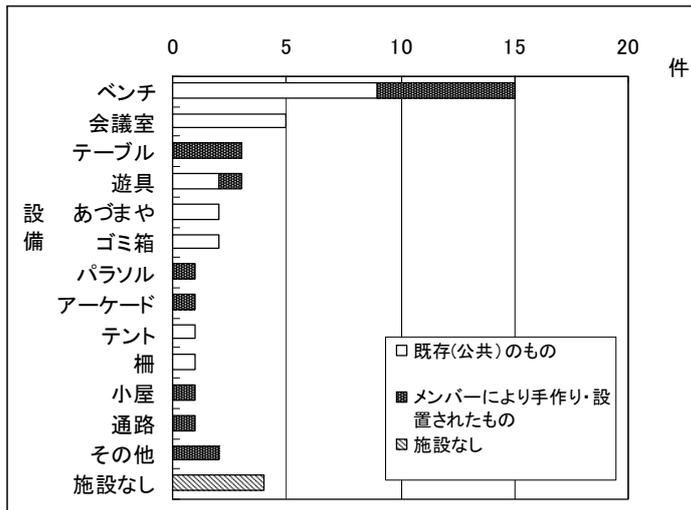
写真 3-6 (左). アステム芦屋 AB 棟管理組合の果樹

写真 3-7 (右). コミュニティガーデンクラブふるりのアーケード

次にコミュニティガーデン内の設備の保持状況を事例ごとに整理した結果、表 3-2 を得、それをグラフ化してグラフ 3-2 に示した。

表 3-2. 設備の保持状況

	花壇の配置状況 [1]									[2]					[3]	[4]						
	[1]-1			[1]-2			[1]-3															
	西畑フラワ ーロードの会	緑のこだま	アステム芦屋	M s ガーデン	P M O あしや	C G クラブふるる	花の宝殿	米田県住フラワ ーロード	レスタージュ芦屋	有野台エコタウ ンクラブ	淡路公園を楽し もう会	春日町自治会	コープデイズ神 戸西	コープ大久保	新開地エヌピー オー	北須磨団地公園 管理会	500 人委員会 板宿会	浜の宮公園を愛 する会	花と緑のまちづ くり高砂	AGN 加古川	バーベナ淡路	
ベンチ		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
会議室											○		○	○						○	○	
テーブル		○		○		○																
ゴミ箱										○											○	
テント						○																
柵						○																
小屋							○															
遊具		○				○						○										
パラソル		○																				
アーケード						○																
あづまや												○				○						
通路																						○
その他												○										○
施設なし	○							○						○				○				



グラフ 3-2. 設備の保持状況

表 3-2 およびグラフ 4-2 より、最も保持数が多かったのがベンチで 15 件見られ、活動メンバーや地域住民の休憩場所として利用されている例が多かった。なお、ベンチは 15 件のうち 6 件がメンバーによって設置されたものであった。神戸市須磨区「500 人委員会板宿会」では、花壇の縁に地域住民がゆっくり腰をかけられるようにと花壇の縁に板をとりつけオリジナルの簡易ベンチを設置するといった工夫が見られた。次に、無料で使える会議室を有している例が 5 件見られ、講習会や活動メンバーが休憩する場として使用されていることがわかった。この会議室はもともと有していなかった例がほとんどで、活動メンバーが活動時に話し合いの場がなく不便を感じ、自治体や近隣の学校等に交渉し、利用の許可を得たグループが多いことがヒアリングにより明らかになった。また、淡路市で活動する「バーベナ淡路」の、交通量の多い交差点の花壇では、花壇内に通路を設け、子供達が車道から離れて安全に通行できるように工夫した。



写真 3-8 (左). 500 人委員会板宿会の簡易ベンチ



写真 3-9 (右). バーベナ淡路の花壇内通路

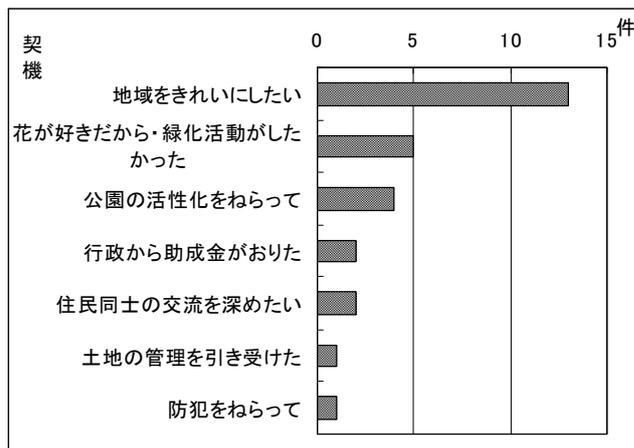
3-2. 分析 2：活動内容の分析結果

分析 2-1：活動発足の契機の分析結果

まず、事例ごとの活動発足の契機を整理し、表 3-3 およびグラフ 3-3 を得た。

表 3-3. 活動発足の契機

	花壇の配置状況 [1]									[2]				[3]	[4]							
	[1]-1			[1]-2			[1]-3															
	西畑フラワーロードの会	緑のこだま	アステム芦屋	M's ガーデン	P M O あしや	C G クラブふるる	花の宝殿	米田県住フラワーロード	レスタージュ芦屋	有野台エコタウンクラブ	淡路公園を楽しもう会	春日町自治会	コープデイズ神戸西	コープ大久保	新開地エヌピーオー	北須磨団地公園管理会	500人委員会板宿会	浜の宮公園を愛する会	花と緑のまちづくり高砂	A G N 加古川	バーベナ淡路	
地域をきれいにしたい	○	○	○				○		○	○		○	○		○		○	○			○	○
花が好きだから・緑化活動がしたかった						○			○					○						○	○	
公園の活性化をねらって		○		○	○						○											
行政から助成金がおりました		○						○														
住民同士の交流を深めたい			○												○							
土地の管理を引き受けた															○							
防犯をねらって												○										



グラフ 3-3. 活動発足の契機

グラフ 3-3 より、活動発足の契機として最も多かったのは、地域をきれいにしたいが 13 件見られ、地域貢献したいという意識が高いことがわかる。高砂市で活動する「花の宝殿」では、宝殿駅前の荒れていたスペースをきれいにし、花壇として有効利用したいと活動を発足した。次に多かったのは、花が好きだから・緑化活動がしたかったという、活動メンバー自身の嗜好を含んだ契機で、5 件見られた。また、ポートアイランドで活動する「M's ガーデン」や、淡路インターチェンジ内の公園で活動する「淡路公園を楽しもう会」のような、総合公園や観光地の公園を活動場所とするグループでは、公園に多くの人が訪れ賑

わうことを狙いとして活動を始めた例があった。芦屋市で活動する「春日町自治会」では、地域の公園が荒れ果て、不法投棄等の犯罪が多発していたことから、公園をきれいにして防犯に役立てようという狙いで活動を始めたことがヒアリングによりわかった。



写真 3-10 (左). 花の宝殿の活動場所 (活動開始前)



写真 3-11 (右). 花の宝殿の活動場所 (活動開始後)



写真 3-12 (左). 春日町自治会の活動場所 (活動開始前)



写真 3-13 (右). 春日町自治会の活動場所 (活動開始後)

## 分析 2-2：定期的な活動のグルーピング

日常的に行われる花壇活動以外に、定期的に行われる活動を取り上げ、KJ法を用いていくつかのグループにグルーピングした。

まず、すべての活動（20例）を下に挙げる。

- |                 |              |
|-----------------|--------------|
| 11. バザー（花苗等の販売） | 1. クラフト作成    |
| 12. 地域の催しに協力    | 2. 花壇コンテスト参加 |
| 13. 花の展示会       | 3. リサイクル活動   |
| 14. ウォークラリー     | 4. 広報発行      |
| 15. スポーツ大会      | 5. 交流会       |
| 16. 野外映画会       | 6. 自然観察会     |
| 17. 夕日を眺める会     | 7. ボランティア    |
| 18. お花見         | 8. 公園の清掃     |
| 19. 講習会         | 9. 防災訓練      |
| 20. 見学旅行        | 10. 環境教育     |

上記の20例をいくつかのグループにグルーピングした結果、次のようになった。

- |  |
|--|
| 1. スキルアップ系（4例）<br>講習会、見学旅行、交流会、自然観察会               |
| 2. 地域貢献系（5例）<br>公園の清掃、地域の催しに協力、ウォークラリー、防災訓練、ボランティア |
| 3. 成果物の発表系（4例）<br>バザー、花の展示会、花壇コンテスト参加、広報発行         |
| 4. 娯楽系（5例）<br>クラフト作成、スポーツ大会、野外映画会、お花見、夕日を眺める会      |
| 5. 環境貢献系（2例）<br>リサイクル活動、環境教育                       |

グルーピングの結果、スキルアップ系、地域貢献系、成果物の発表系、娯楽系、環境貢献系の5つに分けられた。このうち成果物の発表とは、花壇の植栽を利用し広く公開した活動を指す。また、娯楽系とは活動メンバーおよび地域住民が交流や自らが楽しむことを目的に開催される活動を指す。

分析 2-3：日常的な活動

訪問ヒアリングにより、定期的な活動以外に、日常的に活動メンバーや地域住民がコミュニティガーデンを利用して行う活動があることがわかった。

これらの活動は、定期的に行われている活動以上に地域住民との関わりが深く、活動の場の構成要素と活動内容の関係を明らかにする上でも重要な要素でもあると判断し、着目した。日常的な活動内容（5例）は下記の通りである。

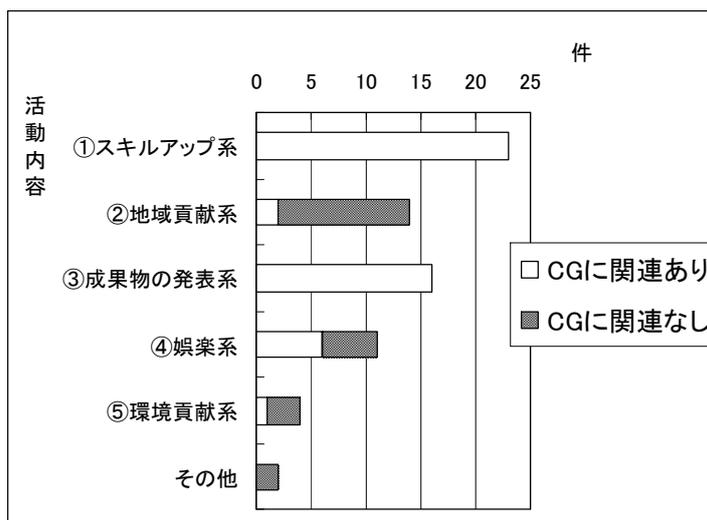
- |              |
|--------------|
| 1. 花壇活動      |
| 2. 休憩場所として利用 |
| 3. お茶会       |
| 4. 子供の遊び場になる |
| 5. 散歩コースになる  |

定期的な活動 20 例と、日常的な活動 5 例の、合計 25 例の活動内容を事例ごとに整理し、表 4-4 を得た。また、それぞれの活動時にコミュニティガーデンの知識、場、植栽、設備、のいずれかを利用している場合はコミュニティガーデンと関連ありとみなし、活動内容がどの程度コミュニティガーデンとの関連を持つかをグラフ化し、グラフ 3-4 を得た。

表 3-4. 事例ごとの活動内容

		花壇の配置状況 [1]											合計件数 (件)											
		[1]-1			[1]-2			[1]-3			[2]	[3]		[4]										
		西畑フラワールロードの会	緑のこだま	アステム芦屋	M s ガーデン	P M O あしや	C G クラブふるる	米田県住フラワールロード	レスタージュ芦屋	有野台エコタウンクラブ	淡路公園を楽しもう会	春日町自治会		コープデイズ神戸西	コープ大久保	新開地エヌビーオー	北須磨団地公園管理会	500人委員会板宿会	浜の宮公園を愛する会	花と緑のまちづくり高砂	A G N 加古川	バーベナ淡路		
定期的な活動	①スキルアップ系	講習会									●												11	
		見学旅行	○																					6
		自然観察会										●												3
		交流会																						3
	②地域貢献系	地域の催しに協力			■	■																	■	6
		公園の清掃																						2
		ボランティア				●																		4
		防災訓練																						1
		ウォークラリー																						1
	③成果物の発表系	バザー（花苗等の販売）	○	○		○																		6
		花壇コンテスト参加																						5
		花の展示会																						2
		広報発行																						3
	④娯楽系	クラブ作成				■																		6
		お花見		●																				2
		夕日を眺める会																						1
		スポーツ大会					■																	1
	⑤環境貢献系	野外映画会					●																	1
		リサイクル活動																						3
環境教育																							1	
その他																							2	
日常的な活動	⑥花壇活動	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	21	
	⑦休憩場所として利用		●					●		●													5	
	⑧お茶会			○																			4	
	⑨子供の遊び場となる						●																2	
	⑩散歩コースになる	●	●		●						●												5	

- ※ コミュニティガーデンとの関連あり…○または●
- ※ コミュニティガーデンとの関連なし…□または■
- ※ 花壇活動メンバー以外の参加者がある場合は黒塗り



グラフ 3-4. 活動内容件数

表 3-3 より、定期的な活動では、園芸の技術を得るための①スキルアップ系が 23 件と最も多く、③成果物の発表系が次に多く 16 件見られた。これらは、活動場所や植栽を利用するため、コミュニティガーデンとの関連（○，●表記）が見られ、参加者は活動メンバーのみの例（○表記）がほとんどであった。また、②地域貢献系が 14 件で相次いで多く見られ、ここでは活動メンバー以外の地域住民をも巻き込んだ活動（●，■表記）が 14 件中 10 件見られた。④娯楽系では、活動メンバーのみの例（○，□表記）と、地域住民の参加がある例（●，■表記）がほぼ半数ずつ見られた。

芦屋市で活動する「PMO あしや」では、環境貢献系の活動として、花壇活動によって発生した木屑等からチップを精製し、地域の催しの際にバザーで販売するといったリサイクル活動が特徴的であった。また、有野台エコタウンクラブでは、定期的に地域の小学校で花壇活動や環境問題にまつわる講義を実施しており、子供達に環境教育の機会を提供している。神戸市で活動する M's ガーデンでは、子供達が花壇活動を体験できる場を提供するといった、ボランティア活動にも力を入れている。また、宝塚市で活動する「緑のこだま」をはじめとする 6 事例では、花壇で育てたハーブ等を利用したクラフト作成を行っていた。これは活動メンバー自身が楽しめる活動であり、中にはクラフト作成を目標に植栽を設定している事例も見られた。



写真 3-14 (左). PMO あしやのチップ精製装置 (リサイクルの例)

写真 3-15 (右). PMO あしや チップ精製の様子 (リサイクルの例)



写真 3-16 (左). M's ガーデン 学生の花壇活動体験に使われた花壇 (ボランティアの例)

写真 3-17 (右). 緑のこだま つる性植物を使って作成した植木鉢 (クラフト作成の例)

一方日常的な活動では、全事例が花壇活動を行っていることはもちろんだが、それに加えて、地域住民の休憩の場として利用されたり、活動メンバーや地域住民がお茶会を開くなど、地域の中での憩いのスペースとして利用されていることがわかった。日常的な活動では、どの場合も活動場所や植栽が利用されていることからすべてコミュニティガーデンとの関連 (○, ●表記) があり、地域住民の参加がある例 (●表記) がほとんどであったので、コミュニティガーデンは日常的に地域との関わりが頻繁に見られることがわかった。

「緑のこだま」では、育てているハーブを利用して、活動メンバーのお茶会を開いたり、花がきれいだという理由から、地域住民の散歩コースになるなど、日常的に広く利用されていることがヒアリングにより明らかになった。また、三田市で活動する「コミュニティガーデンクラブふるる」では、ベンチや遊具が設置されているため、お茶会だけでなく、子供達の遊び場として利用されていた。

次に、グラフ 3-4 より、スキルアップ系はコミュニティガーデンについての勉強の場で

あるので、すべての活動がコミュニティガーデンと関連を持っていることがわかる。また、成果物の発表系はコミュニティガーデンの場と植栽を多く利用していることから、すべての活動がコミュニティガーデンと関連を持っていることがわかった。一方、地域貢献系では、コミュニティガーデンの場を使う場合と、別の場で協力する場合があったが、コミュニティガーデンに関連がなくても、積極的に地域の行事や催しに協力している例が多かった。この地域貢献系の活動では、地域住民とのコミュニケーションを図れる場でもあるので、住民同士の交流を深める場やコミュニティガーデン活動をアピールする場として役立っていることがヒアリングによりわかった。

表 3-4 とグラフ 3-4 より、多様な活動の中でも、スキルアップ系 (23 件)、地域貢献系 (14 件) の活動が積極的に実施されていた。スキルアップ系の活動は花壇活動をよりよく運営する上で重要であり、また地域貢献系の活動は住民間の交流の場づくりに寄与するため、取り入れるのが好ましいが、それだけでなく、娯楽系の活動のように活動メンバー自身が楽しめる活動を併せ持つことが、コミュニティガーデン活動を継続させる上で必要であるという意見がヒアリングにより得られた。

### 3-3 分析 3：活動の場の構成要素と活動内容の関係の分析結果

#### 分析 3-1：活動場所と活動内容の関係の分析

花壇活動が行われているコアとなる活動場所およびサブとなる活動場所を調べた結果、表 3-5 を得た。公園 (8 件)、空き地 (公共地・私有地含む) (8 件)、店舗の一部 (3 件)、商店街沿い・沿道 (2 件) という結果になった。

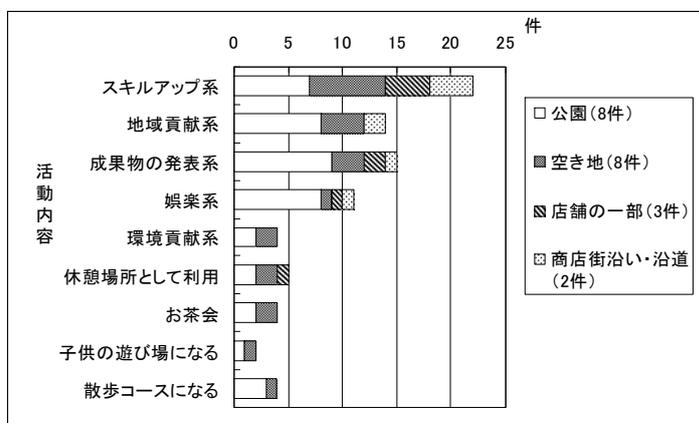
表 3-5. 花壇の場所

	花壇の配置状況[1]										[2]					[3]	[4]	合計				
	[1]-1					[1]-2					[1]-3											
	西畑フラワーカーの会	緑のこだま	アステム芦屋	M s ガーデン	レスタージュ芦屋	P M O あしや	C G クラブふるる	花の宝殿	米田県住フラワーカー	有野台エコタウンクラブ	淡路公園を楽しもう会	春日町自治会	コープデイズ神戸西	コープ大久保	新開地エヌピーオー	北須磨団地公園管理会	500人委員会板宿会	浜の宮公園を愛する会	花と緑のまちづくり高砂	A G N 加古川	バーベナ淡路	
公園の全体		◎																				1
公園の一部				◎		◎				◎	◎		◎	◎	◎		◎					8
空き地等 (私有地)			◎		◎										◎		◎					4
空き地等 (公共地)	◎					◎	◎	◎	◎				◎	◎			◎				◎	6
店舗の一部												◎	◎			◎						3
商店街															◎					◎		2
沿道																◎			◎		◎	3

※ ◎印はコアとなる花壇の場所、○印はサブ的な花壇の場所

表 3-5 より、コアとなる活動場所を大きく 4 つに分類すると、公園（8 件）、空き地（公共地・私有地含む）（8 件）、店舗の一部（3 件）、商店街沿い・沿道（2 件）という結果になった。

これらの活動場所と、活動内容の関係をグラフ 3-5 に示した。



グラフ 3-5. 活動場所と活動内容の関係

グラフ 3-5 より、スキルアップ系は活動場所に関係なく、あらゆるグループによって行われていることがわかる。この理由は、スキルアップ系の活動は、活動場所だけに限らず、会議室や他グループの活動場所で催されるため、特別なスペースを必要としないためである。一方、地域貢献系と成果物の発表系は、活動している花壇や、花壇周辺にある程度の広さがないと実施できない場合が多いため、スペースの確保しやすい公園や空き地を活動場所とするグループによって多く行われていることがわかった。また、娯楽系の活動は、花壇周辺にスペースを必要とする場合と、会議室等の別の場所を利用して行う場合がある。よって、公園や空き地を活動場所とするグループだけでなく、加古川市駅前および駅前商店街で活動する「AGN 加古川」のように、スペースを持たないグループでも会議室を上手く利用している例が見られた。

また、日常的な活動では、人々が集まる場がある花壇の配置状況でのみ、活動が見られた。中でも、神戸市北区で活動する「有野台エコタウンクラブ」のように、ベンチ等の休憩が可能な設備を持つグループでは、「休憩場所となる」、「お茶会」等の活動が行われていることがわかった。一方、加古川市で活動する「浜の宮公園を愛する会」のように、ベンチ等の休憩が可能な設備を持たないグループでは、「散歩コースとなる」という活動が見られ、地域住民が散歩をしながら花や緑を楽しむという例が見られた。



写真 3-18 (左). AGN 加古川の駅前花壇



写真 3-19 (右). 有野台エコタウンクラブの花壇脇ベンチ

分析 3-2 : 活動の場の構成要素と活動内容の関係図の作成

活動の契機から活動開始後の変化までの流れを表した関係図を作成し、図 3-1 を得た。

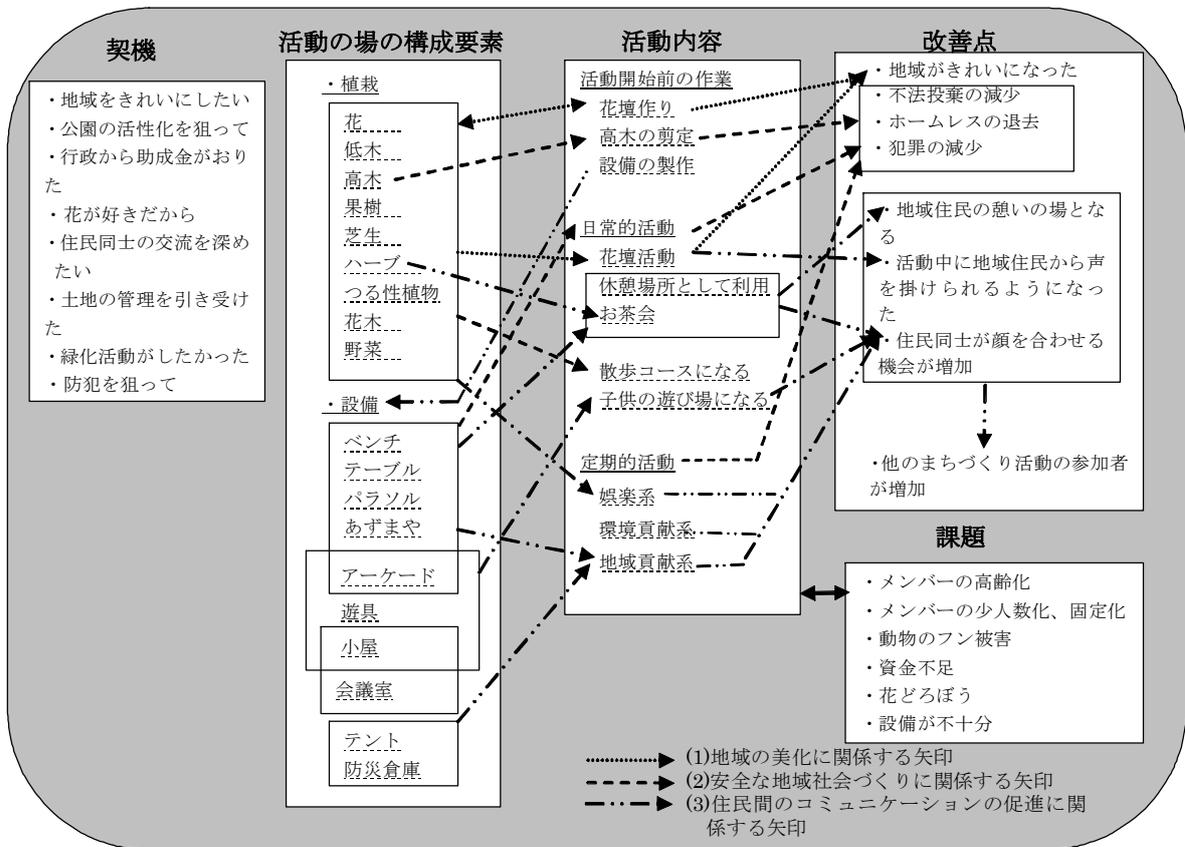


図 3-1. 活動の場の構成要素と活動内容の関係図 (全体)

図 3-1 より、コミュニティガーデンの活動の場の構成要素と活動内容が互いに関係し合うことによって、以下の3つの効果が確認された。

(1)地域の美化

まず、コミュニティガーデンを開設するための作業として、花壇作りを行い、活動場所を整備し、植栽に花を選定することによって、地域の美化に寄与する。また、花壇活動の継続によって、コミュニティガーデンを維持することで花と緑あふれる地域づくりに貢献することが可能となる。

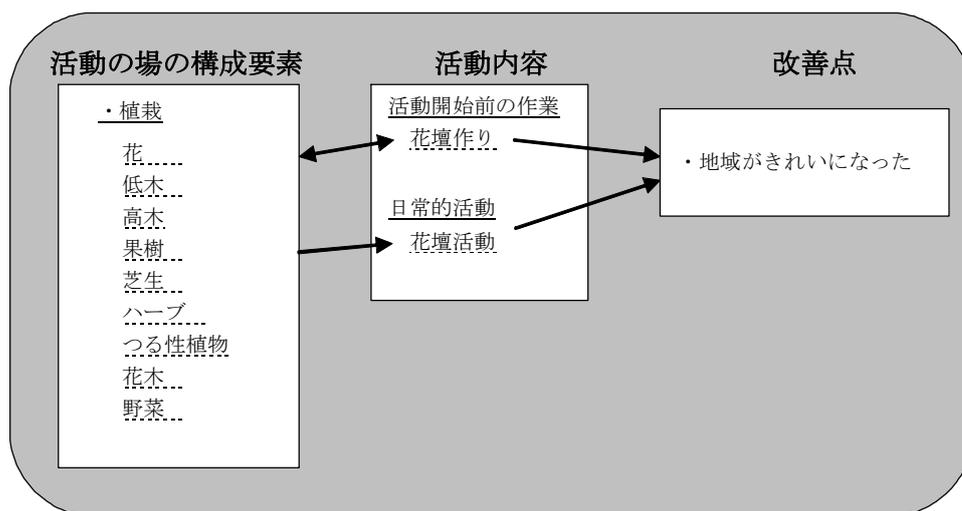


図 3-2. 活動の場の構成要素と活動内容の関係図 地域の美化について

## (2)安全な地域社会づくり

まず、コミュニティガーデンを開設するための作業として、高木の剪定等の周辺環境の整備を行う。そうして活動場所周辺の退廃を改善し、高木等による死角を取り払うことで、オープンな空間を作り、犯罪の起こりにくい環境を整える。また、日常的に花壇活動を行ったり、地域住民の休憩の場となるなど、常に人が行き来する場を作ることで、治安の維持に貢献することができ、安全な地域社会の構築につながる。

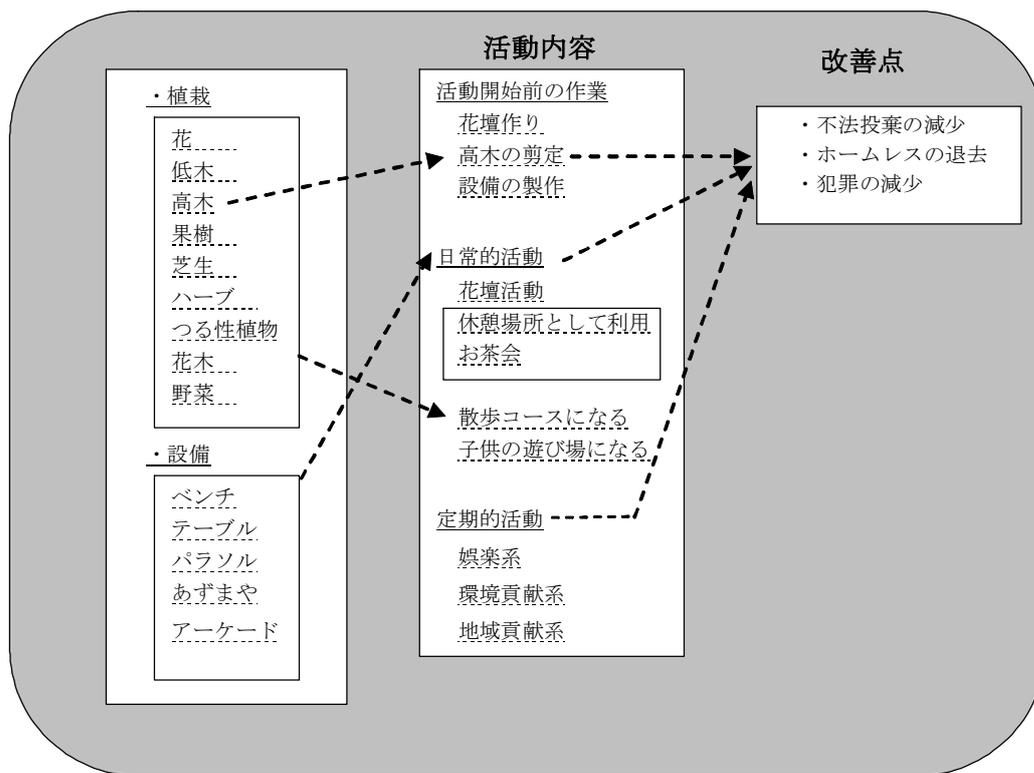


図 3-3. 活動の場の構成要素と活動内容の関係図 安全な地域社会づくりについて

### (3)住民間のコミュニケーションの促進

コミュニティガーデンの植栽の選定や、設備の製作・設置によって憩いの場を作り出すことにより、その活動の場の構成要素を利用した「お茶会」や「休憩場所として利用」等の日常的活動や、「娯楽系」、「環境貢献系」、「地域貢献系」の定期的活動が可能となる。また、それらの活動に地域住民も参加できるため、活動メンバー間だけでなく、住民間で顔を合わせる機会が増えることで、コミュニケーションの促進をもたらす。

また、コミュニティガーデン活動により住民間のコミュニケーションが促進されたことで、他のまちづくり活動へも参加の手を広げる住民が出てくるといった連鎖反応も含まれている。

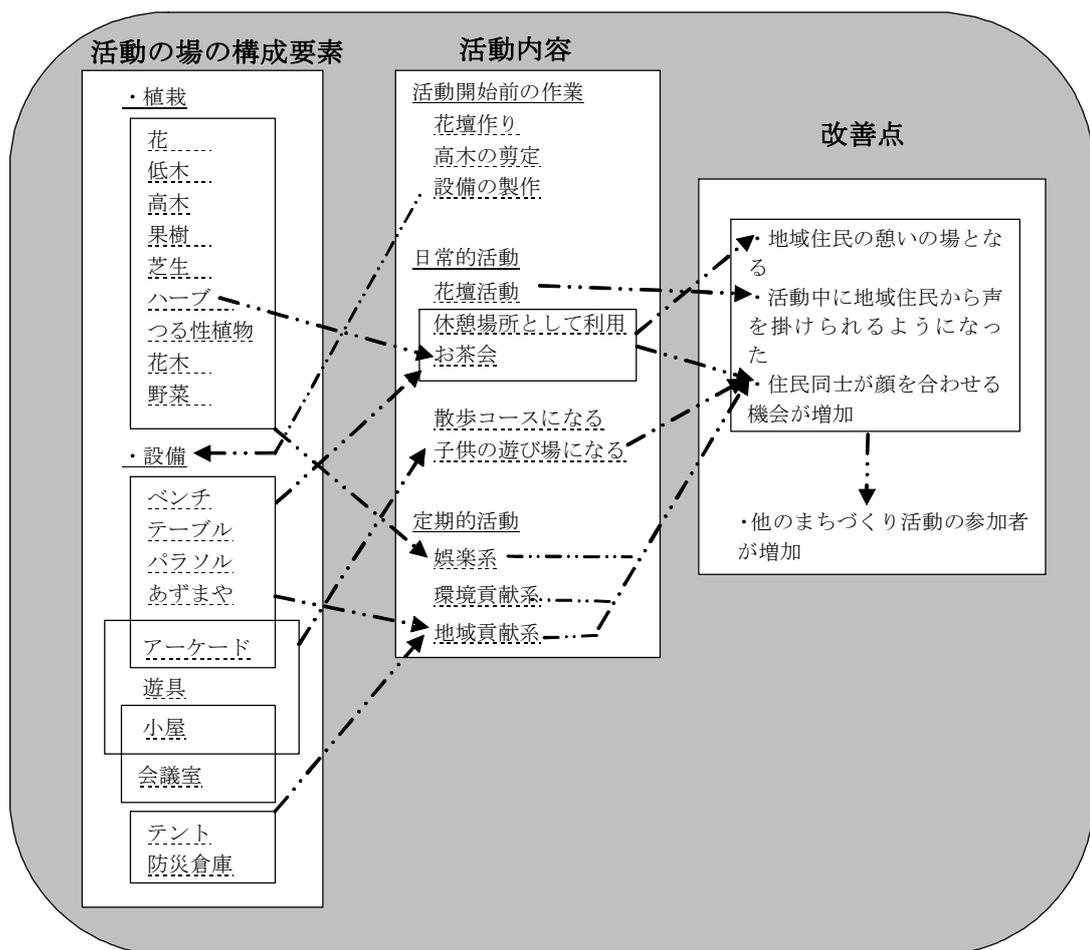


図 3-4. 活動の場の構成要素と活動内容の関係図 住民間のコミュニケーションの推進について

(1)~(3)の効果が明らかになった一方で、活動を行う上で、メンバーの高齢化や資金不足、花どろぼう等の課題を抱えていることがわかった。しかし、それらの課題に対する対策が書くグループで行われていた。「500人委員会板宿会」では、花どろぼうの対策として、花壇内の数カ所に「お花を大切に」という看板を立てて花どろぼうやいたづらを防いでいる。

「米田県住フラワーロード」では、メンバーの高齢化を防ぐため、地域の子供会に参加を呼びかけている。また、「バーベナ淡路」では、次世代にも魅力ある活動を取り入れる努力をするなど、メンバーの高齢化を防ぐための工夫をしている。



写真 3-20. 500 人委員会の花壇内看板

### 3-5. 事例の紹介

次に、比較的活動が上手くいっている事例（(1)宝塚市「緑のこだま」、(2)神戸市「新開地まちづくりエヌピーオー」、(3)コミュニティガーデンクラブふるる）について活動の概要を述べ、活動の場の構成要素と活動内容の関係図を作成し、考察した。

(1) 宝塚市「緑のこだま」

「緑のこだま」に対する訪問ヒアリング結果を表 3-6 に示す。

表 3-6. 「緑のこだま」ヒアリング回答

		質問項目		回答	
1	活動内容	管理・運営 について	どんな人がメンバーか	地域住民	
2			年齢層	40代～定年退職後の人	
3			人数	約40人	
4			いつ発足したか	2004年12月	
5			どのような活動か	公園内の花壇づくり	
6			活動発足のきっかけ	長尾台小学校区まちづくり協議会（コミュニティひばり）に県から助成金があり、活動団体をさがしていたので発足した。また、あまり使われていなかった公園の活性化をねらって活動を始めた。	
7			活動の頻度	ほぼ毎日（個人の自由）	
8			資金	行政からの助成金	自治会および県より助成あり
9				助成物資	年2回あり
10				会費	なし
11				その他の収入源	コープともしびボランティアからの助成、バザーで出た利益等
12				花壇の担当は割り振っているか	なし
13	花壇以外の活動	どのような活動か	イベント（花の展示会、バザー等）、デザインコンテストへの参加、クラフト作成会、お茶会、休憩（雑談）場所として利用される		
14		頻度	年2回程度		
15		集まるメンバー数	メンバー約20人、地域住民約300人		
16	施設形態	活動場所	面積・規模	約1000㎡	
17			所有者	宝塚市	
18			その土地を選んだ理由	長尾台2丁目公園は利用者が少なかったため、地域住民の集いの場にしたかったから	
19		花壇の分布の仕方	花壇の分布の仕方	プランター大6個・小15個、花壇20㎡、道路沿い10m	
20			発足時から変わらないか	7個の花壇を増やした	
21			なぜその分布に至ったか	日々アレンジを加え変化をもたせているため	
22	施設内容	植栽	植栽	花、ハーブ	
23			なぜその植栽を選定したか	メンバーの好みにより	
24		設備	設備	ベンチ、テーブル、パラソル	
25			発案者	活動メンバー	
26			利用頻度	日常的に利用	
27			利用者	活動メンバー、地域住民	
28			いつ利用するか	活動メンバー…活動時にお茶を飲んだり、夕日を眺めたりする場として利用。地域住民…お弁当を持って花見をする、散歩コースの休憩地点として利用。	
29			その他	問題点	問題点
30	解決のための努力	次世代にも魅力ある活動を模索している			
31	今後の展開	今後の目標		のり面緑化、その他パワーアップ事業	
32		欲しい施設		倉庫	

## 「緑のこだま」の活動の概要

### <活動発足の契機>

2004年12月、長尾台小学校区まちづくり協議会（コミュニティひばり）に県から助成金があり、活動団体を探していたので、活動グループを発足した。また、活動するにあたって、利用者の少なかった長尾台2丁目公園の活性化をねらって活動場所を選定した。

### <花壇の配置状況>

花壇の配置状況[1]（3-1. 分析 1-1 参照）。約1000㎡の公園内に、プランタ大6個・小15個、花壇20㎡、道路沿いの10mでの花壇活動を行う。（ほぼ公園全体を利用して花壇活動を行っている。）



写真 3-21（左）. 緑のこだまの花壇 1

写真 3-22（右）. 緑のこだまの花壇 2

### <施設内容>

植栽は、活動メンバーの嗜好により花とハーブが選定された。

設備は、活動メンバーにより製作されたベンチ、パラソル、テーブルである。製作理由は、活動メンバーや地域住民の憩いの場を作るためであった。



写真 3-23. 「緑のこだま」のベンチ、パラソル、テーブル

<活動内容>

活動内容は花壇活動に加えて、花の展示会、バザー、花壇コンテストへの参加、クラフト作成会などの定期的活動と、活動メンバーによるお茶会、活動メンバーおよび地域住民の休憩場所として日常的に利用されている。

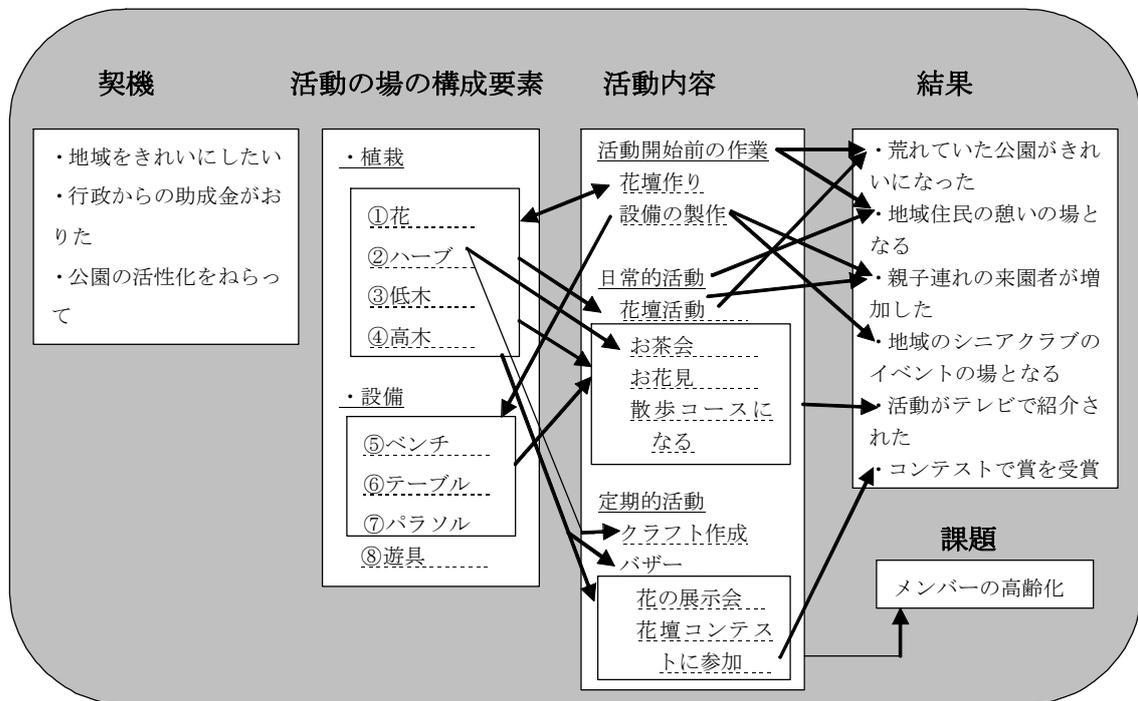


図 3-5. 活動の場の構成要素と活動内容の関係図 (緑のこだま)

緑のこだまでは、コミュニティガーデンの活動の場の構成要素と活動内容が相互に関係し合うことにより以下の2つの効果が見られた。

(1)地域の美化

活動開始前の作業として、花壇作りなど公園内の整備を行った。また、緑のこだまでは、花壇のデザインが工夫に富んでおり、花を豊富に取り入れた、見た目にも大変美しいデザインであった。この花壇作りと、日常的な花壇活動を継続させることにより、以前は荒れていた公園がきれいになり、地域の美化に貢献することができた。

(2)住民間のコミュニケーションの促進

活動開始後、公園を集いの場にしたいという考えから、活動メンバーと有志でベンチ、パラソル、テーブルを製作し、設置した。以前は住民の利用者が少なかった公園だったが、設備の設置と、花壇活動の継続により、地域住民の利用が増えた。長尾台2丁目公園は、眺めのよい環境にあり、夕方には夕日がきれいに見えることから、活動を終えた活動メンバーが、ハーブを利用したお茶会や、お酒を持ち寄り休憩したり、春には公園の桜が美し

いことから、近隣のケアハウスの方たちがお花見を楽しむことがあった。その際に、手作りのベンチやテーブルが休憩の場として役立っている。また、親子連れの来園者も増え、ベンチでお弁当を広げる姿も見られた。このように、公園が地域住民によって賑わうことで、住民間の顔見知りも増え、コミュニケーションの促進につながる。

また、これらの活動が多方面で評価され、その活動が地域社会から奨励された。詳細は以下に記す。

- ・ 2006年4月のオープンガーデンコンテストで金賞受賞<阪神北県民局局長賞>
- ・ NHKの取材を受け、活動がテレビで紹介された  
(取材撮影 2006年10月23日、放送 2006年11月7日)
- ・ 阪神北にぎわい広場に出席した際に、総評で緑のこだまの活動が取り上げられ、高い評価を受けた(2006年12月2日)
- ・ 宝塚市の初めての試みとして、業者を入れず全面的にボランティアグループに公園の管理を委託する、最初の4グループのうちの1つに選ばれた

以上より、緑のこだまの活動は地域社会から奨励を受け、メディアを通して広く知られつつあり、また、そのような地域社会の反応が活動をする上での励みとなっている。

#### <まとめ>

緑のこだまでは、その活動によって、(1)地域の美化、(2)住民間のコミュニケーションの促進、といった効果をもたらした。

活動をする上での課題は、「メンバーの高齢化」のみで、公園の利用者のマナーもよく、いたずら等による問題点がないことが特徴的であった。メンバーの高齢化については、若い世代にも魅力のある活動をしていくために、活動の幅を広げる努力をしている。

また、助成金をもらうことにより、活動内容を充実させなければならないというプレッシャーもあるが、活動メンバー自身が楽しめる活動を織り交ぜ、メンバー自身が楽しみながら活動しているという声を聞くことができた。

(2)神戸市兵庫区「新開地まちづくりエヌピーオー」

「新開地まちづくりエヌピーオー」に対する訪問ヒアリング結果を表 3-7 に示す。

表 3-7. 「新開地まちづくりエヌピーオー」ヒアリング回答

		質問項目		回答	
1	活動内容	管理・運営 について	どんな人がメンバーか	商店街の住民	
2			年齢層	50～70歳	
3			人数	約15人	
4			いつ発足したか	2001年10月	
5			どのような活動か	ガーデンの維持管理、キッズ00農園の管理	
6			活動発足のきっかけ	地域をきれいにしたい、住民間の交流を深めたい	
7			活動の頻度	水やりは毎日、手入れ会は月一回	
8			資金	行政からの助成金	約60万円(2006年度)
9				助成物資	苗240株(年3回)
10				会費	なし
11				その他の収入源	商店街からの持ち出し20万円、NPOからの持ち出し20万円(2006年度)
12				花壇の担当は割り振っているか	水やりは担当制
13		花壇以外の活動	どのような活動か	交流会、講習会の開催、広報発行、ガーデニング散策(見学会)、商店街のイベントへの協力	
14			頻度	広報の発行は月1回、講習会の開催は年4回、散策会は年数回、	
15			集まるメンバー数	約25人	
16	施設形態	施設タイプ	活動場所	南公園内の花壇20㎡、湊川公園内の花壇30㎡、まちづくりスクエア前花壇18㎡、新開地劇場前の花壇24㎡コンテナ約50基、農園30㎡	
17			所有者		公園…神戸市、コンテナ・農園…
18			その土地を選んだ理由		荒れていた空き地にガーデンを作りたいと思い、所有者に要請した
19		花壇の分布の仕方	花壇の分布の仕方	花壇4箇所と商店街沿い等のコンテナ約50基	
20			発足時から変わらないか	初めは公園内の花壇1箇所だけであつたが次第に増えていった	
21			なぜその分布に至ったか	商店街の協力店が増えたため	
22		施設内容	植栽	植栽	花、野菜
23				なぜその植栽を選定したか	子供が活動に参加することをねらったため
24			設備	設備	なし
25				発案者	-
26				利用頻度	-
27				利用者	-
28		いつ利用するか	-		
29	問題点	問題点	猫や犬のフン被害		
30		解決のための努力	マットや柵の設置		
31	その他	今後の展開	今後の目標	公園の改修が決まっており、公園内に大きなガーデニングのスペースをつくり、公園利用者の憩いの場所をつくつように現在神戸市と打ち合わせを進めている	
32			欲しい施設	公園内スペースにカフェコーナー	

## 「新開地まちづくりエヌピーオー」の活動の概要

### <活動発足の契機>

2001年10月、地域をきれいにし、住民同士の交流を深めることを目的に、商店街の住民が中心となり活動を発足した。花壇のほかに、地域の子供達が参加できる「キッ ZOO 農園」を開園したり、地域内の企業に協力を依頼し、企業前にコンテナを設置している点が特徴的である。また、商店街の中では荒れていたスペースを上手く利用した花壇作りを行っている。

### <花壇の配置状況>

花壇の配置状況[2] (3-1. 分析 1-1 参照)

新開地南公園内の花壇 20 m<sup>2</sup>、湊川公園内の花壇 30 m<sup>2</sup>、まちづくりスクエア前花壇 18 m<sup>2</sup>、新開地劇場前の花壇 24 m<sup>2</sup>、コンテナ約 50 基、農園 30 m<sup>2</sup>。

活動発足当初は、新開地南公園内の花壇 1ヶ所だけであったが、次第に商店街の中の協力店が増え、活動場所を増やしていった。



写真 3-24 (左). 新開地南公園の花壇<sup>1)</sup>



写真 3-25 (中). 地域内企業前のコンテナ<sup>2)</sup>



写真 3-26 (右). キッ ZOO 農園<sup>3)</sup>

### <施設内容>

植栽は、子供たちが参加しやすいように、花と野菜が選定された。

設備は、特になし。

### <活動内容>

活動内容は花壇・農園活動に加えて、講習会、交流会、見学旅行といったスキルアップ系の活動が充実しており、また、地域の催しにも積極的に協力している。キッ ZOO 農園は、小学生以下の子供とその母親が参加者で、半年ごとに参加者を募集しているが、人気が高く応募者が多い状況である。

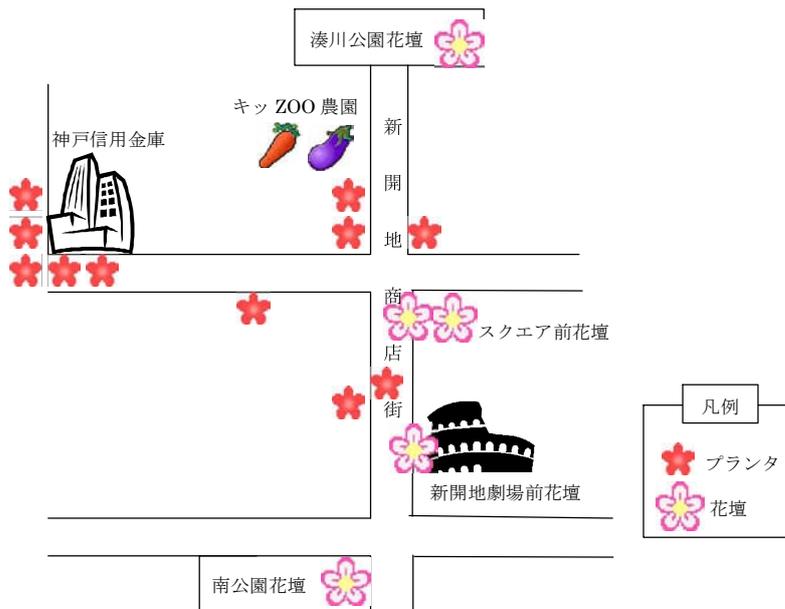


図 3-6. 新開地まちづくりエヌピーオー花壇配置図

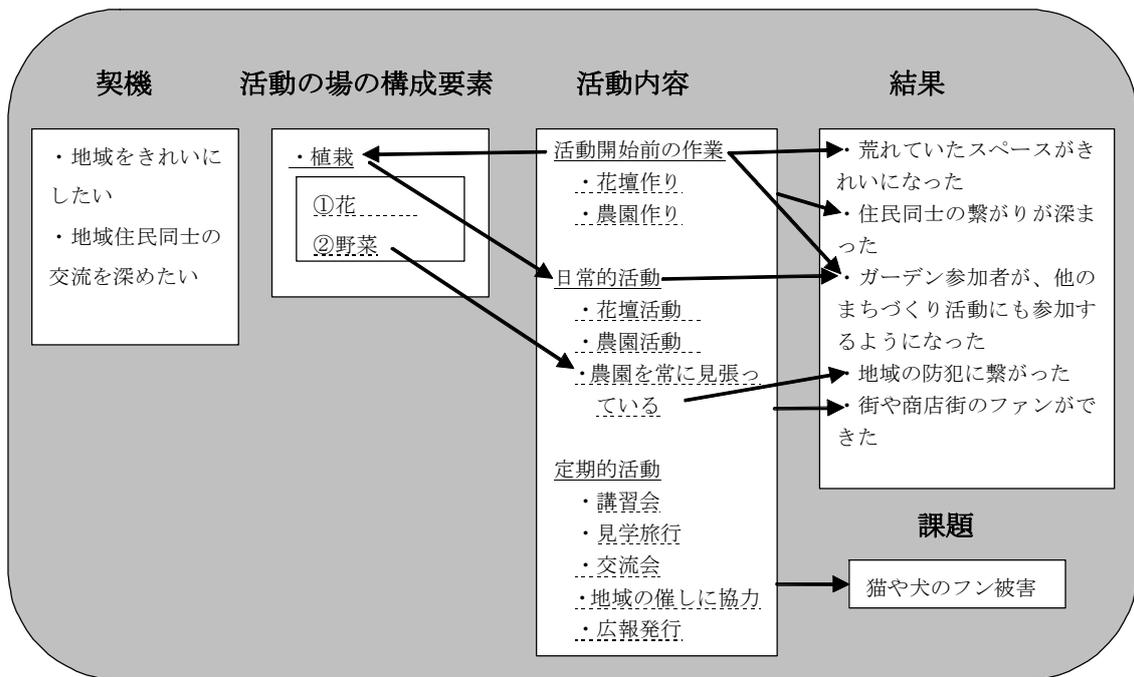


図 3-7. 活動の場の構成要素と活動内容の関係図（新開地まちづくりエヌピーオー）

新開地まちづくりエヌピーオーでは、コミュニティガーデンの活動の場の構成要素と活動内容が相互に関係合うことにより、以下の3つの効果が見られた。

#### (1)地域の美化

活動開始当時は、花壇は一ヶ所だけだったが、商店街を中心に、空いているスペースや荒れている場所に花壇を作っていた。また、商店街の各店舗前や、企業前のスペースにプランタを設置し、花と緑あふれる商店街に変化した。月1回の手入れ会以外にも、花壇では水遣りを当番制にして随時行い、継続的に世話をすることで、花壇活動を維持し、

#### (2)安全な地域社会づくり

キッ ZOO 農園では、野菜を育てているため、花を育てている花壇よりも管理が重要であるため、地域の誰かが農園に目が届くところにいることが多い。それに加えて、日常的に花壇の手入れを行うことで、常に人が行き来する地域を作ることができ、地域の防犯に役立ち、治安の維持に貢献している。

#### (3)住民間のコミュニケーションの促進

新開地まちづくりエヌピーオーの活動により、常に人が行き来する商店街になり、しだいに地域住民の中で顔見知りが増え、住民間のコミュニケーションが促進された。また、広報発行や、活動が新聞に掲載されたことにより、他地域からの協力者も増えて、新開地のファンが増えたという意見を聞くことができた。

さらに、キッ ZOO 農園に参加した子供の母親たちが、他のまちづくり活動にも参加してくれるようになったので、住民間でまた新たな交流が深まったと思われる。

#### <まとめ>

新開地まちづくりエヌピーオーでは、その活動によって、(1)地域の美化、(2)安全な地域社会づくり、(3)住民間のコミュニケーションの促進、といった効果がもたらされた。

活動をする上での課題は、「犬や猫によるフン被害」のみで、日々の活動は商店街のメンバーで協力して運営できている。

特に特徴的だった点は、キッ ZOO 農園に参加している子供の母親たちが、他のまちづくり活動にも参加してくれるようになったという点である。子供の興味をそそり、収穫後に食べることができる野菜を育てることで、子供にも参加してもらい、そこから子供の母親たちという若い世代をまちづくりに巻き込んでいけたことは、メンバーの高齢化を課題に挙げているグループにとって参考になり、本研究が意義のあるものとなる。

(2) コミュニティガーデニングクラブふるる

「コミュニティガーデニングクラブふるる」に対する訪問ヒアリング結果を表3-8に示す。

表3-8. 「コミュニティガーデニングクラブふるる」ヒアリング回答

		質問項目		回答	
1	活動内容	管理・運営について	どんな人がメンバーか	近隣の住宅街の住民	
2			年齢層	親子連れもしくは60歳～	
3			人数	約20世帯	
4			いつ発足したか	2005年9月	
5			どのような活動か	水やり、草刈り、種まき	
6			活動発足のきっかけ	地区センター予定地が空き地のままだったので、三田市からクラブ活動の案内があり、人が集まりコミュニティガーデンを作りたいという要望が出たため発足した。	
7			活動の頻度	週一回（水やりは毎日）	
8			資金	行政からの助成金	県より講座開講のための助成金50万円（2006年）、兵庫県の花みどりレベルUP事業助成金（プレゼンにより査定）。
9				助成物資	植物・道具費(上限5万円/年)(活動立ち上げの助成の為3年で打ち切り)
10				会費	カルチャータウンを作る会（当クラブの元となる会）の会費のうちからクラブ援助の1万円
11				その他の収入源	なし
12				花壇の担当は割り振っているか	なし
13	花壇以外の活動	どのような活動か	園芸福祉の講習会(今までに4回実施)、子供を対象とした自然観察会を計画中、お茶会、本の読み聞かせ、子供の遊び場として利用される		
14		頻度	未定		
15		集まるメンバー数	約13人		
16	施設形態	施設タイプ	活動場所	面積・規模	350㎡
17				所有者	兵庫県
18			その土地を選んだ理由	地区センター予定地が空き地のままだったので、三田市からクラブ活動の案内があったため	
19		花壇の分布の仕方	花壇の分布の仕方	広い場所をいくつか区切って使用	
20			発足時から変わらないか	変わらない	
21			なぜその分布に至ったか	花壇が作りやすいように区切った	
22		施設内容	植栽	植栽	花、ハーブ、つる性植物
23				なぜその植栽を選定したか	近隣農家から野菜の栽培を反対されたため、今の植栽になった
24			設備	設備	ベンチ、テーブル、小屋、シーソー
25				発案者	カルチャータウンを作る会の会長
26				利用頻度	日常的に利用
27				利用者	活動メンバー、地域のこども
28	どのように利用するか			子供に絵本の読み聞かせをする、自由に朝ごはん等を持ち寄って休憩、ハーブティーでお茶会、講習会時	
29	その他	問題点	問題点	メンバーが固定化し、なかなか人が集まらない	
30			解決のための努力	手入れ等はメンバー間で協力	
31		今後の展開	今後の目標	子供のガーデンを作りたい、いろいろな人に参加してほしい	
32			欲しい施設	特になし	

## 「コミュニティガーデンクラブふるる」の活動の概要

### <活動発足の契機>

三田市では、地区センター予定地が使用されず空き地のままになっていたところ、その場所を利用したクラブ活動が募集された。そこで地域住民が集まり、コミュニティガーデンを作りたいという声上がり、2005年9月に花壇作りが始まった。発足して間もないので、現在は活動を模索しながら、今後は様々な活動に展開したいと考えている。

### <花壇の配置状況>

花壇の配置状況[1] (3-1. 分析 1-1 参照)

地区センター予定地(約11700㎡)のうち、半分に土を入れてグランド化した。そのうち花壇として利用しているスペースは現在350㎡であり、手入れがしやすいように花壇を細かく区切って活動している。

### <施設内容>

植栽は、花、ハーブ、つる性植物を選定している。野菜を取り入れることも考えたが、近隣農家の反対があり、栽培することができなかった。

設備は、ベンチ、椅子、テーブル、小屋、遊具、アーケードを設置していた。椅子とテーブルは小屋の中に設置されているものであった。なお、小屋、遊具、アーケードは活動メンバーによって製作・設置されたものであった。この活動場所では、建築基準法上、屋根を架けた建物を設置できないため、この小屋ではシート等を上手く利用して日よけを作る等の工夫が見られた。



写真 3-27 (左). コミュニティガーデンクラブふるるの小屋



写真 3-28 (右). コミュニティガーデンクラブふるる 小屋の内部

<活動内容>

花壇活動以外に、講習会を現在までに4回実施している。また、子供を対象とした自然観察会を計画している。日常的な活動としては、活動メンバーのお茶会、子供達に本の読み聞かせ、子供の遊び場として利用されている。

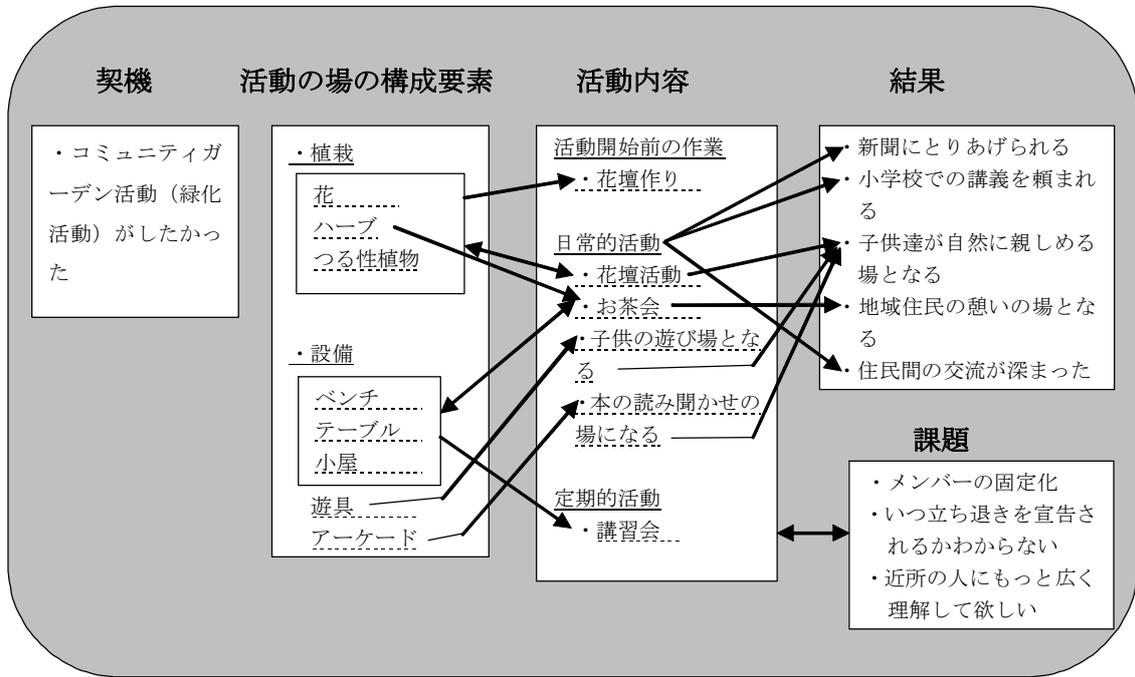


図 3-8. 活動の場の構成要素と活動内容の関係図 (コミュニティガーデンクラブふるる)

コミュニティガーデンクラブふるるでは、コミュニティガーデンの活動の場の構成要素と活動内容が相互に関係し合うことにより以下の効果が見られた。

(1)住民間のコミュニケーションの促進

コミュニティガーデンクラブふるるでは、日常的な花壇活動に加えて、お茶会をするための休憩スペースが欲しかったため、メンバーで協力して小屋を製作し、小屋の中にはテーブルや椅子を設置した。その結果、小屋では日常的にハーブを利用したお茶会が開かれたり、活動メンバーが小屋で休憩するなどが可能となった。

また、遊具の製作・設置によって地域の子供達の遊び場にもなり、子供の母親たちも花壇を訪れるきっかけとなり、住民間で顔を合わせる機会が増えたため、コミュニケーションの促進につながった。

#### <まとめ>

コミュニティガーデンクラブふるるでは、その活動により、(1)住民間のコミュニケーションの促進、といった効果がもたらされた。

活動をする上での課題は、「メンバーの固定化」、「いつ立ち退きを宣告されるかわからない」、「近所の人にもっと広く活動を理解して欲しい」の3点であった。そのうち、「いつ立ち退きを宣告されるかわからない」というのは、この活動は地区センター予定地で一時的に土地を借りて行われているため、土地の使い道が決定したら立ち退かなければならないということが危惧されている。また、「近所の人にもっと広く活動を理解して欲しい」というのは、一部の地域住民間でこの活動に対して理解が得られていない状況にあることがヒアリングによりわかった。

コミュニティガーデンクラブふるるで特徴的だったことは、日常的に子供が出入りしていることと、活動に必要なと思われる設備をメンバーの協力で製作している点がとてもアクティブに感じられたことである。設備があることで、子供達から「朝ごはんを持って行って、アーケードの下で食べたい」という声も出た。また、日々の花壇活動に子供達も参加させることにより、都市部ではなかなか触れることのできない自然に親しめる場としても役立っていた。

【参考文献】

- 1), 2), 3) 特定非営利活動団体・新開地まちづくりエヌピーオー, まちかどガーデニング活動紹介, <<http://www.shinkaichi.or.jp/npo/gardening/concept.html#01>>, 2005/11

## 第 4 章

### 本研究のまとめ

## 第4章 本研究のまとめ

この章では、まず、前章までの調査分析内容をまとめ、考察する。最後に本研究とコミュニティガーデン活動の今後の展望について述べる。

### 4-1 各章のまとめ

ここでは、第1章から第3章までの内容と結果をまとめる。

第1章では、本研究の背景・目的・意義について述べた。

第2章では、研究の方法について述べた。まず、研究の手順として仮説の立案をし、プレ調査内容を報告した後に、コミュニティガーデンの概要について述べ、それらを踏まえて対象範囲と事例の対象事例の選定を行った。そして分析の枠組みを簡単に説明し、最後に調査方法について述べた。

第2章で立案した仮説とは、「コミュニティガーデンの施設形態に工夫を凝らすことで、活動内容を選定することができ、それによって地域の課題を解決することにつながる」である。また、この章で得たコミュニティガーデンの定義では、コミュニティガーデンは市民花壇に比べて自由度が高く、地域住民が主体となって運営し、花壇活動以外にも多様な活動に取り組んでいることがわかった。また、活動の場の構成要素には、花壇の配置状況および施設内容（植栽および設備）が含まれることを定義した。

第3章では、分析1～3の分析結果について述べた。さらに、特徴的な事例について紹介し、それらの事例ごとに行った分析結果を掲載した。以下に第3章で得た結果を述べる。

#### 分析1：活動の場の構成要素の分析

分析1より、花壇の配置状況は大きく4つに分類することができ、なかでも、公園などのコアとなる活動場所1ヶ所のみで活動するグループが21事例中10件と最も多かった。また、商店街や沿道にプランタを並べたタイプや、オープンガーデンを併せ持つタイプが少数事例見られた。このことから、本研究で扱った事例は、ほとんどが花壇周辺にスペースを持つタイプであることがわかった。これは分析2の活動内容にも深く関係してくる要素となった。また、施設内容として、植栽では、21件すべての事例が四季が感じられる等の理由から花を採用しており、手入れの楽な低木が次に多く14件見られたことから、花壇作りには清潔感や華やかさを求めている一方で、花壇活動を継続させるために手入れの楽な植栽も上手く組み合わせていると考えられた。一方、設備では、ベンチが最も多く15件で、そのうちメンバーによって製作・設置されたものが6件あり、ベンチが元から設置されていない場合は活動メンバーが積極的に取り入れ、設置している傾向があるのではないかと考えた。また、次に多かった会議室は5件見られ、活動メンバーが各自治体から無

料で使える会議室を借りている例が多かったことから、なるべくお金をかけずに地域の施設をうまく利用して活動に取り入れていると考えられた。

### 分析 2：活動内容の分析

分析 2 より、活動の契機として最も多かったのは、「地域をきれいにしたい」が 13 件あり、地域貢献の意識が高いと捉えることができた。次いで多かったのは、活動メンバー自身の嗜好を含んだ契機、地域問題の解決をねらった契機であったため、地域住民は地域の課題に対して関心が高いのではないかと考えられた。また、活動内容では花壇活動だけでなく、地域住民も参加できる定期的活動を行っているグループが大部分を占めていることが明らかになった。なかでも、スキルアップ系、地域貢献系の活動が積極的に実施されていた。スキルアップ系の活動は花壇活動をよりよく運営する上で重要であり、また地域貢献系の活動は住民間の交流の場づくりに寄与するため、取り入れるのが好ましいが、それだけでなく、娯楽系の活動のように活動メンバー自身が楽しめる活動を併せ持つことが、コミュニティガーデン活動を継続させる上で必要であることがわかった。

### 分析 3：コミュニティガーデンの活動の場の構成要素と活動内容の関係性についての分析

コミュニティガーデンの活動の場の構成要素と活動内容が互いに関係し合うことによって、図 4-1 のような関係図が得られ、以下の 3 つの効果を確認された。

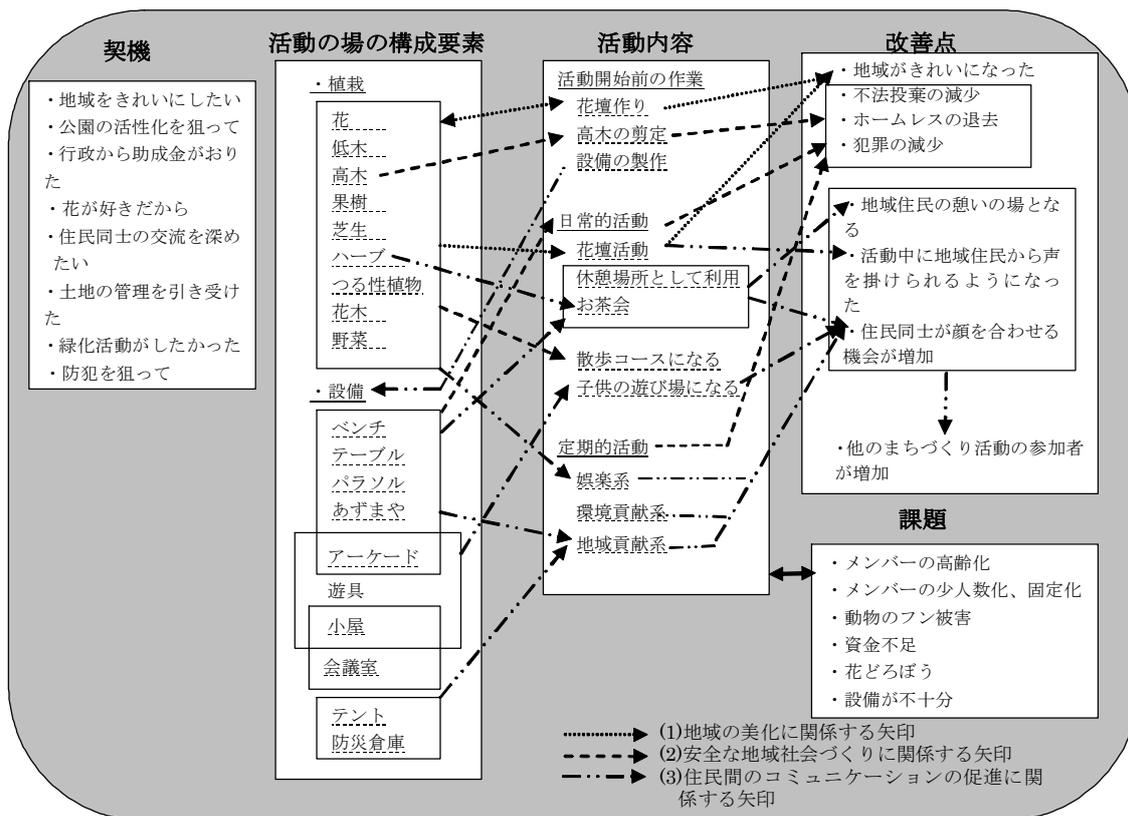


図 4-1. 活動の場の構成要素と活動内容の関係図

### (1)地域の美化

コミュニティガーデンを開設するために、花壇作りを行い、活動場所を整備することで、地域の美化に寄与する。また、花壇活動の継続によって、コミュニティガーデンを維持し、花と緑あふれる地域づくりに貢献することが可能となる。

### (2)安全な地域社会づくり

コミュニティガーデンを開設するために、高木の剪定等の周辺環境の整備を行うことで、高木等による死角を取り払い、活動場所周辺の退廃を改善することで、オープンな空間を作り、犯罪の起こりにくい環境を整える。また、日常的に花壇活動を行ったり、地域住民の休憩の場となるなど、常に人が行き来する場を作ることで、治安の維持に貢献することができ、安全な地域社会の構築につながる。

### (3)住民間のコミュニケーションの促進

コミュニティガーデンの植栽の選定や、設備の製作・設置によって憩いの場を作り出すことにより、その活動の場の構成要素を利用した活動が可能となり、住民同士が顔を合わせる機会が増え、住民間のコミュニケーションの促進に貢献する。

これらの効果を持つ一方で、メンバーの高齢化や、花どろぼうなどの課題を抱え、それに対する解決策が各グループで工夫されていることがわかった。

また、3-5 で着目した 3 つの事例における活動の場の構成要素と活動内容の関係性から得られた効果はいずれも上記の(1)~(3)に当てはまった。よって 2-1-1 で立てた、「コミュニティガーデンの施設形態に工夫を凝らすことで、活動内容を選定することができ、それによって地域の課題を解決することにつながる」という仮説は正しいのではないかと考えられるが、十分に検証される必要がある。

## 4-2 本研究の課題と今後の展望

### 4-2-1 調査および分析における課題

本研究の調査および分析における課題は、対象事例の少なさであった。対象事例が多ければ多いほど、分析過程では全体に占める割合が算出できるなど、多様な分析が可能となり、結果の信頼性も高くなると考えられる。しかし、筆者による調査では、活動グループの代表者は私人になっていることがほとんどであり、個人情報保護法の施行により、活動グループの代表者にアプローチすることが難しく、対象事例数の母数となる、電話ヒアリングを実施した事例が少なかった。これにより、調査対象事例選定後の対象事例数が少なくなってしまった。代表者のアプローチ手段を得る段階で、工夫が必要であったと言える。

また、本研究のヒアリング調査では、代表者 1 名に回答してもらった場合がほとんどであったため、活動メンバーによって意見が異なっていた場合、結果に誤差が生じる可能性がある。また、代表者 1 名にしか回答してもらっていないため、メンバーの年齢を尋ねたと

ころ、「50歳～70歳」のように大まかな年齢層は把握しているが、一人ひとりの年齢は把握されておらず、不明確な回答になってしまった。これは、分析過程では問題ないが、活動の課題点として「メンバーの高齢化」が挙げられたため、具体的な年齢の内訳が明らかにならず、課題点の内容が漠然としたものになってしまった。そのため、活動メンバーの年齢については、ヒアリングの仕方に工夫が必要であったと考える。

また、本研究で立案した仮説が正しいのではないかと考えられるという結論が得られたが、検証が不十分であったため、今後この仮説についてより厳密に検討されることが望まれる。

#### 4-2-2 今後の展望

まず、研究としての今後の展望を述べる。

本研究では、コミュニティガーデン活動メンバーのみにヒアリングを行い、コミュニティガーデンの周辺住民まではヒアリングを実施しなかった。周辺住民について、「ガーデンの存在と活動を認識しているか」、「どのくらいの頻度でガーデンを利用しているか」、また、「地域住民の全体のうちのどれくらいの割合の住民がガーデンを利用しているか」などの、周辺住民の利用状況についても明らかにされることが望まれる。

また、本研究の調査では、ヒアリングの際に、行政等からの助成金について質問を設けた結果、各グループによって助成金にかなりの差が見られたが、それについての考察は行っていない。また、2006年4月1日から兵庫県で導入された「県民緑税」<sup>1)</sup>を活用する事業案項目に、県民まちなみ緑化事業が掲げられていたことから、今後はコミュニティガーデン活動が積極的に推進され、活動グループは「県民緑税」から助成金を得られる可能性が広まった。そこで、行政等による助成制度についても調査されることが望まれる。

最後に、本研究の調査実施期間は、「のじぎく兵庫国体(2006年)」<sup>2)</sup>の準備期間にあつたため、兵庫県内では普段よりも花壇の手入れが熱心に行われているという意見がヒアリングの際に得られた。国体が終わった期間では、「継続して花壇活動が行われているか」、「その他の活動内容に変化はないか」などについても調査する必要が感じられた。

次に、コミュニティガーデンの今後の展望について述べる。

本研究のヒアリング調査の際に得たコミュニティガーデン活動の課題点は、活動メンバーのほとんどは約60歳以上の主婦か、あるいは65歳以上の定年退職後の男性であったため、「メンバーの高齢化」を課題に挙げているグループが多かった。よって多くのグループで、コミュニティガーデン活動の継続性が危惧されている。これらのことから、コミュニティガーデン活動は定期的にメンバーを増やし、活動を継続させていく努力が必要である。メンバー確保のために行われていた解決策の例として、芦屋市内の、活動メンバーが在住するマンション周辺で活動している「レスタージュ芦屋管理組合」では、マンションのエレベーター内に花壇の様子などの活動報告を記載した広報を掲示することにより、住民に活

動を知ってもらい、参加者を増やすきっかけ作りとしていた。また、神戸市兵庫区で活動する「新開地まちづくりエヌピーオー」では子供達が興味を持つ野菜を育てる農園を開園したり、三田市で活動する「コミュニティガーデンクラブふるる」では、地域の子供達の遊び場となるように遊具を製作したり、子供専用の花壇を計画するなどして、その子供達の親の世代の地域住民を活動に引き込むことが可能となった。これらの例のように、コミュニティガーデン活動に若い世代も参加できるような工夫を凝らし、活動を継続させることが望まれる。

また、本研究ではコミュニティガーデンの活動の場の構成要素と活動内容の関係がもたらす結果として、(1)地域の美化、(2)安全な地域社会づくり、(3)住民間のコミュニケーションの促進、の3点が明らかになったが、コミュニティガーデン活動はこの3点以外にも、環境教育の推進や福祉活動への貢献など、多方面で地域社会に貢献できる可能性を含んでいると考えられる。本研究で調査した活動内容だけに限らず、多様な活動にチャレンジし、その可能性を開拓していくことが望まれる。

【参考文献】

- 1) 兵庫県, 生活, 税金・公金収納, 県民緑税の導入について,  
<[http://web.pref.hyogo.jp/pa04/pa04\\_000000001.html#h02](http://web.pref.hyogo.jp/pa04/pa04_000000001.html#h02)>, 2007/01
- 2) のじぎく兵庫国体, <<http://www.habatan2006.jp/>>, 2007/01

本稿は、滋賀県立大学環境科学部環境計画学科環境社会計画専攻における研究成果を学位論文としてまとめたものである。

本研究を進めるにあたり、多くの方々にご協力を頂きました。

終始暖かく、また適確に指導して下さった錦澤滋雄講師には謹んで謝意を表します。また、本研究を査読して下さった鶴飼修助教授には、本論文を修正する上での的確な指摘をいただきました。心から御礼申し上げます。

お忙しい中、コミュニティガーデンの活動事例の収集に快くご協力いただいただけでなく、本研究に対するアドバイスを頂いた、財団法人都市緑化基金の小松さん、コープこうべ・コミュニティ推進の鈴木さん、淡路景観園芸学校の平田富士男教授、PMO あしやの松尾さんには大変お世話になりました。

また、電話ヒアリングにご協力いただいた46件の緑化活動グループの代表者の方々には貴重なお話を聞かせていただきました。特に、訪問ヒアリングの際に、花壇を案内し、活動について貴重なお話を伺いました21事例のコミュニティガーデン活動グループのメンバーの皆さんには、本当に親切に対応していただき、感謝の気持ちでいっぱいです。西畑フラワーロードの会の本白水さん夫妻には、花壇まで案内していただき、公園で涼みながら活動について話していただきました。緑のこだまの松永さんと宝塚市の雲雀丘自治会環境部会の熊澤さんには、公園の花壇や雲雀丘の住宅街を案内していただき、ヒアリング後も何度もメールで質問させていただきお手数をおかけしたにも関わらず、その度に快く協力していただきました。アステム芦屋 AB 棟管理組合園芸クラブ・PMO あしやの松尾さんには、公園や団地の花壇のについて詳しくお話を聞くことができ、また松尾さんのご親切な対応がとても嬉しかったです。M's ガーデンを訪問した際には、後藤さんを始めとするメンバーのみなさんの花壇活動に参加させていただき、共に汗を流して花の植え替えやハーブ講習の受講など貴重な体験ができました。レスタージュ芦屋グリーンクラブの塩谷さんには、花があまり咲かない季節に訪問したにも関わらず、丁寧にご説明していただき、楽しい時間を過ごすことができました。コミュニティガーデンクラブふるの神野さんを始めとするメンバーの皆さんには、小屋の中でハーブティーをごちそうしていただいたり、神野さんにはヒアリング後もメールで質問をさせていただき大変お世話になりました。花の宝殿・米田県住フラワーロードの高田さんと加藤さんは、2ヶ所の花壇を案内していただき、とても暖かく説明をして下さりました。有野台エコタウンクラブの牛込さんは、とても親しみやすく娘のように接して下さり、花壇だけでなく、有馬の街を案内していただき、とても楽しい時間を過ごすことができました。淡路公園を楽しもう会の長谷川さんを始めとするメンバーの皆さんには、自然観察会の下見に同行させていただき、植栽について丁寧に解説していただきました。春日町自治会の円満堂さん夫妻には、活動の発足から現在の様子まで細かく説明していただき、本研究において結果を導き出すきっかけとも

なりました。コープデイズ神戸西店ローズマリーの岡本さんには、とても親切にまた活動的に案内していただき、岡本さんの花壇活動に対する思いを聞かせていただきました。コープ大久保ハナミズキの福井さんを始めとするメンバーの皆さんには、長い時間お世話になり、日常的な活動の様子を詳しく教えていただくことができました。新開地まちづくりエヌピーオーの神野さんにはヒアリングの際だけでなく、何度も質問させていただいてお世話になりました。北須磨団地公園管理会の河合さんには、公園を何ヶ所も回って案内していただき、活動やその土地の生態についての説明をしていただきました。500人委員会板宿会の倉島さんを始めとするメンバーの皆さんには、とても温かく迎えていただき、活動の様子を実際に拝見させていただきました。浜の宮公園を愛する会の倉地さんには、花壇脇の公園でお茶会をしながら、活動についての貴重なお話を聞かせていただきました。NPO 法人花と緑のまちづくり高砂の浅原さんには、高砂の街の沿道の並木を案内していただき、定例会に参加させていただきました。AGN 加古川の乗田さんを始めとするメンバーの皆さんには、活動の様子を拝見させていただき、会議室を利用してとても親切にお話を聞かせていただきました。バーベナ淡路の上田さんには、プランタの配布作業に同行させていただき、また暑い中数ヶ所の花壇を案内していただいて、とても楽しい時間を過ごすことができました。訪問させていただいたグループの皆さんには心からの謝意を表します。皆さんの快いご協力なしでは、本研究をすすめることはできませんでした。ありがとうございました。

また、本研究を進める過程で常に励ましあい、心の支えになっていた環境社会計画専攻の仲間たちに感謝いたします。

最後に、私を4年間滋賀県立大学に通わせてくれた家族に感謝の意を述べます。本当にありがとうございました。

2007年2月9日

橋本美由紀

# 付録

付録

ここでは、訪問ヒアリングを行った各グループの、ヒアリング回答内容を掲載する。

1. コープ大久保ハナミズキ

施設タイプ[2]

表 1. コープ大久保ハナミズキ ヒアリング回答

		質問項目		回答	
1	活動内容	管理・運営について	どんな人がメンバーか	地域住民（コープ会員）	
2			年齢層	60～76歳	
3			人数	6人（初めは15人だった継続できる人が少なく、人数が減った）	
4			いつ発足したか	1997年	
5			どのような活動か	コープ店舗周辺の花壇・コンテナの手入れ、公園や道路沿いの花壇の手入れ	
6			活動発足のきっかけ	コープから花と緑のサークルを発足し、花の好きな人が集まりグループを作った	
7			活動の頻度	毎日当番制で水やりや手入れ、	
8			資金	行政からの助成金	なし
9				助成物資	なし
10				会費	なし
11				その他の収入源	コープより3万円/年
12			花壇の担当は割り振っている	なし	
13			花壇以外の活動	どのような活動か	花の指導会（講習会）
14				頻度	毎月一回
15				集まるメンバー数	6人
16	施設形態	活動場所	面積・規模	コープ周辺の花壇約95㎡・コンテナ6個、大久保東団地内公園50㎡、遊歩道10㎡、池の周辺10㎡	
17			所有者	コープ	
18		施設タイプ	その土地を選んだ理由	自分たちの住んでいる周辺をきれいにしたい、地域の役に立ちたいから。	
19			花壇の分布の仕方	花壇の分布の仕方	コープ周辺9箇所、団地内3ヶ所
20		発足時から変わらないか		初めはコンテナ5箇所だった	
21		なぜその分布に至ったか		自分たちの住んでいる周辺をきれいにしたい、地域の役に立ちたいから。	
22		施設内容	植栽	植栽	花、低木
23				なぜその植栽を選定したか	丈夫でよく増え、花期が長いものを選んでいいるから
24	設備		設備	会議室（コープ内）（以前ベンチがあったが不良のたまり場となり、ポイ捨てが増えたため今は撤去されている。）	
25			発案者	コープ	
26			利用頻度	活動時	
27			利用者	活動メンバー	
28			いつ利用するか	活動の際の話し合いの場として	
29			その他	問題点	問題点
30	解決のための努力	新メンバーを集めたりもしたがなかなか継続できる人がいない			
31	今後の展開	今後の目標		自主的に花壇を広げ、花いっぱい街にしたい	
32		欲しい施設	特になし		

2. 淡路公園を楽しもう会

施設タイプ[1]

表 2. 淡路公園を楽しもう会 ヒアリング回答

		質問項目		回答	
1	活動内容	管理・運営 について	どんな人がメンバーか	淡路景観園芸学校の卒業生が多い。ほとんどが島内の住民、一部神戸方面からも受け入れ	
2			年齢層	50歳～	
3			人数	400人→50人	
4			いつ発足したか		
5			どのような活動か	淡路 I C 内の公園の花壇のデザイン、植え込み、手入れ	
6			活動発足のきっかけ	I C 内の公園に訪れる人が少なかったため、もっと人が訪れるようにしたいと行政側から依頼があった。	
7			活動の頻度	月一回（日常の手入れは公園の管理事務所が行う）	
8			資金	行政からの助成金	県より 36 万/年、コベルコ科研より 20 万/年、花博記念事業協会より 20 万/年
9				助成物資	公園の事務所が花の苗を購入
10				会費	1000 円/年（55 人）
11				その他の収入源	なし
12				花壇の担当は割り振っているか	なし
13	花壇以外の活動	どのような活動か	自然観察会、リーダー講習会、押し花作り、キャンドルライト作り、フラワーアレンジメント、各種イベント		
14		頻度	月一回		
15		集まるメンバー数	120 人		
16	施設形態	活動場所	面積・規模	約 45㎡（2m×20m）	
17			所有者	兵庫県	
18			その土地を選んだ理由	元々事務所が手入れしていた場所だが、園芸学校の実習で使ったスペースをメンバーで管理することになった	
19		施設タイプ	花壇の分布の仕方	1ヶ所	
20			発足時から変わらないか	同じ	
21			なぜその分布に至ったか	元々事務所が手入れしていた場所だが、園芸学校の実習で使ったスペースをメンバーで管理することになった	
22		施設内容	植栽	植栽	花、ブルーベリーの木（果樹）
23				なぜその植栽を選定したか	メンバーの好み、珍しいものを植えようというアイデアが出たため
24	設備		設備	公園内にベンチ、会議室	
25			発案者	兵庫県	
26			利用頻度	日常的に利用	
27			利用者	ベンチ...公園利用者、会議室...メンバー	
28			いつ利用するか	ベンチ...日常、会議室...イベントの準備・話し合いの場	
29	その他	問題点	問題点	メンバーの高齢化、交通費がかかる、メンバーの固定化	
30			解決のための努力	園芸学校などのメンバー募集の案内	
31	今後の展開	今後の目標	今後の目標	公園全体を活性化させるために、他グループと連携して活動すること、専門知識をもったコーディネーターが欲しい	
32			欲しい施設	特になし	

3. PMO あしや

施設タイプ[1]

表3. PMO あしや ヒアリング回答

		質問項目		回答	
1	活動内容	管理・運営 について	どんな人がメンバーか	芦屋市民	
2			年齢層	60歳～	
3			人数	60人（よく参加する人は30人、よく作業する人は15人）	
4			いつ発足したか	2003年9月	
5			どのような活動か	芦屋市総合公園内の一部芝生の手入れ、花壇作り、コンテナの設置	
6			活動発足のきっかけ	公園にもっと市民が訪れるように花壇を作る目的で市が公募下。市は予算不足のため、芝生の手入れを低賃金で依頼できるという点にもねらいがあったのではないかと。	
7			活動の頻度	花壇の状態を見て決める、水やりは当番制で毎日	
8			資金	行政からの助成金	昨年は県より35万/年（年によって違う）、市より芝生の管理費
9				助成物資	なし
10				会費	なし
11				その他の収入源	チップの販売による利益
12				花壇の担当は割り振っているか	植栽の種類によって担当者をつける（専門知識を持っている人に担当してもらう）
13	花壇以外の活動	どのような活動か	イベントの企画・主催（野外映画会、クラフト大会、グランドゴルフ大会、バザー等）、チップの加工（リサイクル）、広報発行、お弁当を食べる場（休憩の場）として利用される		
14		頻度	約年3回		
15		集まるメンバー数	約4000人		
16	施設形態	活動場所	面積・規模	芝生6000㎡、花壇700㎡	
17			所有者	芦屋市	
18			その土地を選んだ理由	公園での花壇活動を目的に作られ、その場所での活動を公募されたから	
19		花壇の分布の仕方	花壇の分布の仕方	1ヶ所、芝、プランタ約20個、低木	
20			発足時から変わらないか	同じ	
21			なぜその分布に至ったか	その範囲の管理を市から依頼されているから	
22		施設内容	植栽	植栽	花、低木、芝
23				なぜその植栽を選定したか	季節ごとに担当者を決めて自由にデザインするため、担当者の好み
24			設備	設備	公園内のベンチ、柵（道路側のみ）、テント（イベント時のみ）
25				発案者	芦屋市
26	利用頻度			日常	
27	利用者			公園を訪れた人	
28		いつ利用するか	ベンチ・芝生...弁当を食べたり、ごろごろする。テント...イベント時		
29	その他	問題点	問題点	なし	
30			解決のための努力	なし	
31		今後の展開	今後の目標	花壇を充実させ植物園のようにする、見栄えを良くする	
32			欲しい施設	特になし	

4. アステム芦屋A B棟管理組合・園芸クラブ

施設タイプ[1]

表4. アステム芦屋A B棟管理組合・園芸クラブ ヒアリング回答

		質問項目		回答	
1	活動内容	管理・運営 について	どんな人がメンバーか	マンションの住人	
2			年齢層	55歳～	
3			人数	13人（15人いたが高齢と引越しを理由に2人辞めた）	
4			いつ発足したか	1996年春	
5			どのような活動か	花壇・プランタの手入れ	
6			活動発足のきっかけ	震災後マンションの周りをキレイにしようという目的と住民同士の交流を深めるため発足された	
7			活動の頻度	随時行う、定例会は月一回	
8			資金	行政からの助成金	市より5万/年
9				助成物資	県より肥料や資材の助成
10				会費	管理組合から約100万/年
11				その他の収入源	なし
12				花壇の担当は割り振っているか	2棟あるので、それぞれの棟の住人が担当（発足時から同じ）
13	花壇以外の活動	どのような活動か	管理組合主催のイベント（参加者として参加）があるが、イベント時に住民が座れるスペースを作った		
14		頻度	-		
15		集まるメンバー数	-		
16	施設形態	施設タイプ	活動場所	面積・規模	芝生700㎡、花壇200㎡、低木100
17				所有者	住人の共有地
18			その土地を選んだ理由	自分たちの住宅の周辺であるから	
19		花壇の分布の仕方	花壇の分布の仕方	花壇25ヶ所	
20			発足時から変わらないか	20ヶ所→25ヶ所	
21			なぜその分布に至ったか	使われていない空き地を利用し花壇を増やした	
22		施設内容	植栽	植栽	花、芝、低木、ハーブ、野草、果樹
23				なぜその植栽を選定したか	ハーブ...ブーム、メンバーからの要望。果樹...子供に実のなりかたを見せ、食べてもらう。低木...県より苗をもらう機会があった。花...四季を感じるため
24	設備		設備	公園にあるベンチ、石を並べてベンチ代わりに	
25			発案者	ベンチ...管理組合、石...活動メンバー	
26			利用頻度	ベンチ...日常、石...イベント時	
27			利用者	マンション住人	
28			いつ利用するか	ベンチ...日常、石...イベント時	
29	その他	問題点	問題点	広範囲のわりにメンバーが少ないこと、高齢化	
30			解決のための努力	毎年募集をかけている	
31		今後の展開	今後の目標	活動を持続させること	
32			欲しい施設	特になし	

5. AGN 加古川

施設タイプ[3]

表 5. AGN 加古川 ヒアリング回答

		質問項目		回答	
1	活動内容	管理・運営 について	どんな人がメンバーか	加古川市民。淡路景観園芸学校の卒業生がほとんどを占めている。	
2			年齢層	55歳～	
3			人数	14人（初めは6人だったが少しずつ人数を集め14人になった）	
4			いつ発足したか	2001年	
5			どのような活動か	駅前・駅前商店街のプランタのデザイン、手入れ	
6			活動発足のきっかけ	花の好きなメンバーが活動場所を探していた時に、市に相談した際、市からの要請もありちょうどタイミングが一致したから。	
7			活動の頻度	水やり等の日常的な手入れは毎日当番制で行う	
8			資金	行政からの助成金	3万円/年
9				助成物資	花・プランタ（年3回）
10				会費	1000円/年
11				その他の収入源	みどりのフェスティバルでのバザーの利益
12				花壇の担当は割り振っているか	なし
13	花壇以外の活動	花壇以外の活動	どのような活動か	みどりのフェスティバル参加（バザーで花苗等を売る）、他の活動団体との交流会・勉強会（講習会）、市民を対象とした観察会・樹木ウォッチング・リース作り	
14			頻度	それぞれ年一回	
15			集まるメンバー数	14人	
16	施設形態	施設タイプ	活動場所	面積・規模	約100㎡
17				所有者	加古川市、商店街
18			その土地を選んだ理由	駅前の無断駐車を防ぐために市からの要請があった	
19			花壇の分布の仕方	花壇の分布の仕方	コンテナ約70個を商店街沿い・駅前に450m、オリジナルのコンテナ6個
20		発足時から変わらないか		初めはコンテナ19個から始まったが、だんだん増えてきた	
21		なぜその分布に至ったか		市からの要請	
22		施設内容	植栽	植栽	花、街路樹(低木)
23				なぜその植栽を選定したか	手入れのしやすさやデザイン、地域に合う植生を考えて
24			設備	設備	ベンチ、手作りコンテナ、ゴミ箱、会議室
25				発案者	ベンチ・ゴミ箱...元から商店街に設置されている。手作りコンテナ・会議室...メンバー
26	利用頻度			日常的に利用	
27	利用者			ベンチ・ゴミ箱...市民。手作りコンテナ・会議室...メンバー	
28	いつ利用するか	ベンチ・ゴミ箱...日常的に利用されている。会議室...活動のたびに利用。コンテナ...常に花を植えている			
29	その他	問題点	問題点	資金が足りないこと	
30			解決のための努力	役所に補助金の申請を交渉している	
31		今後の展開	今後の目標	メンバーを30人ぐらいに増やしたい。街中にもっと緑を増やしたい。コミュニケーションの輪を広げるきっかけを作りたい	
32	欲しい施設		特になし		

6. 北須磨団地公園管理会

施設タイプ[2]

表 6. 北須磨団地公園管理会 ヒアリング回答

		質問項目	回答		
1	活動内容	管理・運営 について	どんな人がメンバーか	団地の住人	
2			年齢層	50歳～	
3			人数	約75人	
4			いつ発足したか	昭和52年	
5			どのような活動か	公園内の花壇の手入れ	
6			活動発足のきっかけ	市が管理していたのを自治会が引き受けて管理するようになった	
7			活動の頻度	水やりは毎日	
8			資金	行政からの助成金	市より一つの花壇につき1万5千円/年。その他の助成金は事情により公表できない。
9				助成物資	なし
10				会費	なし
11				その他の収入源	出店による利益
12				花壇の担当は割り振っている	なし
13	花壇以外の活動	どのような活動か	自治会のイベント時に出店を出店、夕日を眺める会、休憩の場となる		
14		頻度	年4回		
15		集まるメンバー数	イベントにより違う		
16	施設形態	活動場所	面積・規模	30㎡以上のものが4箇所(120㎡以	
17			所有者	神戸市	
18			その土地を選んだ理由	住民の目につきやすい、憩いの場になる	
19		花壇の分布の仕方	花壇の分布の仕方	北須磨公園・友が丘西公園に各2箇所ずつ計4箇所	
20			発足時から変わらないか	初めは2箇所だったがしだいに増え4箇所になった	
21			なぜその分布に至ったか	メンバーが積極的に増やそうとしたため	
22		施設内容	植栽	植栽	花
23				なぜその植栽を選定したか	季節によって種類を決めるため、手入れがしやすいものを選んだため
24			設備	設備	ベンチ、シェルター(日よけ)
25				発案者	神戸市
26	利用頻度			日常的に利用	
27	利用者			公園を訪れた市民	
28	いつ利用するか			イベント(夕日を楽しむ会)時は訪れた市民が休憩し夕日を眺める場となる。日常では活動を終えたメンバーがお茶を飲む場にもなる。	
29	その他	問題点	問題点	夏の水やりが大変	
30			解決のための努力	スプリンクラー等を使わずあえて人の手で努力している	
31		今後の展開	今後の目標	もっと皆さんが喜んでもらえる公園に	
32			欲しい施設	特になし	

7. 西畑フラワーロードの会

施設タイプ[1]

表7. 西畑フラワーロードの会 ヒアリング回答

		質問項目		回答		
1	活動内容	管理・運営 について	どんな人がメンバーか	地域住民		
2			年齢層	55歳～		
3			人数	30人(3グループに分かれている) (同		
4			いつ発足したか	2002年		
5			どのような活動か	水路沿いのガーデンの手入れ、管理。年一回(春)にオープンガーデンを一斉開催する。		
6			活動発足のきっかけ	水路沿いの土地が草が生い茂っていて、見栄えが悪かったため、手入れをしないと市に要請した		
7			活動の頻度	メンバーによりそれぞれ違う(毎日の人もいれば土日だけの人もいる)		
8			資金	行政からの助成金	各グループ5万円/年(3年間)	
9				助成物資	土、花苗等70万円分(2003～2006年の3年間にわたり)	
10				会費	なし	
11				その他の収入源	オープンガーデン開催時に花苗を販売した利益	
12			花壇以外の活動	花壇の担当は割り振っているか	あり(発足当初から3グループで分担し、グループ内でも約2名ごとに分担範囲が決まっている。自分の担当範囲を好きにデザインし、自分たち自身が楽しむことが大切だから。)	
13	どのような活動か	バス見学ツアー(他の活動団体の花壇を見学に行く)、オープンガーデン開催時に花苗の販売、散歩のコースとして利用される				
14	頻度	年一回				
15	施設形態	施設タイプ	集まるメンバー数	30人		
16			活動場所	面積・規模	約2400㎡(約4m×600m)	
17				所有者	高砂市	
18				その土地を選んだ理由	水路沿いの土地が草が生い茂っていて、見栄えが悪かったため、手入れをしないと市に要請した	
19			花壇の分布の仕方	花壇の分布の仕方	1ヶ所	
20				発足時から変わらないか	同じ	
21				なぜその分布に至ったか	市からの要請により	
22			施設内容	植栽	植栽	花、低木
23					なぜその植栽を選定したか	それぞれの区分の担当者の好みにより
24				設備	設備	なし
25					発案者	-
26					利用頻度	-
27	利用者	-				
28	いつ利用するか	-				
29	その他	問題点	問題点	花どろぼう、場所により担当者を決めているので新メンバーが入りにくい、メンバーの高齢化		
30			解決のための努力	特になし		
31		今後の展開	今後の目標	市民がもっと街の緑をきれいにしようという意識を持って欲しい		
32	欲しい施設		特になし			

8. 有野台エコタウンクラブ

施設タイプ[1]

表 8. 有野台エコタウンクラブ ヒアリング回答

		質問項目		回答	
1	活動内容	管理・運営 について	どんな人がメンバーか	地域住民	
2			年齢層	50～60歳代	
3			人数	10人前後（年によって5人程度変動がある）	
4			いつ発足したか	2002年	
5			どのような活動か	公園の一部の花壇の手入れ	
6			活動発足のきっかけ	地域の中心にある公園の花壇が手入れされておらず荒れていたため	
7			活動の頻度	週1回（水やりは当番制で毎日）	
8			資金	行政からの助成金	なし
9				助成物資	神戸市より花苗を年3回
10				会費	なし
11				その他の収入源	コープ神戸より5万円/年
12				花壇の担当は割り振っているか	なし
13	花壇以外の活動	どのような活動か	地域の資源回収、小学生への環境学習の授業、中学生のトライやるウィークの受け入れ、雑談の場として利用される		
14		頻度	活動により異なる		
15		集まるメンバー数	活動により異なる		
16	施設形態	活動場所	面積・規模	中央広場80㎡、大型プランタ11	
17			所有者	神戸市北区有野台2丁目・有野台会館	
18			その土地を選んだ理由	地域の中心にある公園の花壇が手入れされておらず荒れていたため	
19		花壇の分布の仕方	花壇の分布の仕方	花壇が3箇所、コンテナ5基、木の根元3箇所	
20			発足時から変わらないか	初めは1箇所だった	
21			なぜその分布に至ったか	初めからすべて手を付けられないので一つずつ増やしていった	
22		施設内容	植栽	植栽	花、低木
23				なぜその植栽を選定したか	広い花壇すべてを何度も植え替える費用と動力が無いので、半分は植え替えなくてよいもので、半分は四季を感じられるものにした
24	設備		設備	ベンチ、吸殻入れ（ゴミ箱）	
25			発案者	ベンチ...有野台会館（公園に元々あるもの）	
26			利用頻度	日常的	
27			利用者	地域住民	
28		いつ利用するか	散歩、待ち合わせ等		
29	その他	問題点	問題点	限られた資金の範囲内での花選び、メンバーの高齢化	
30			解決のための努力	資金面はカンパを募るしかない	
31		今後の展開	今後の目標	再び荒れた土地にならないように活動を継続させること	
32			欲しい施設	大きな植木鉢	

9. M's ガーデン

施設タイプ[1]

表9. M's ガーデン ヒアリング回答

		質問項目		回答	
1	活動内容	管理・運営 について	どんな人がメンバーか	地域住民	
2			年齢層	50歳～	
3			人数	約30人	
4			いつ発足したか	1997年	
5			どのような活動か	ポートアイランド南公園内の花壇作り	
6			活動発足のきっかけ	公園を利用する人が少なかった ので、花壇を作ってきれいにし 多くの人に訪れてもらえるよう にしたいと市から依頼があった	
7			活動の頻度	ほぼ毎日	
8			資金	行政からの助成金	なし
9				助成物資	苗
10				会費	なし
11				その他の収入源	なし
12				花壇の担当は割り振っていない	なし
13	花壇以外の活動	どのような活動か	見学・体験の受け入れ、勉強会、 見学旅行、講習会、イベント協 力、お茶会(ハーブティー)、休 憩スペースとして利用、ボラン ティア受け入れ		
14		頻度	定まっていない		
15		集まるメンバー数	定まっていない		
16	施設形態	活動場所	面積・規模	4000㎡	
17			所有者	神戸市	
18			その土地を選んだ理由	公園を利用する人が少なかった ので、花壇を作ってきれいにし 多くの人に訪れてもらえるよう にしたいと市から依頼があった	
19		花壇の分布の仕方	花壇の分布の仕方	数十箇所(随時変わる)	
20			発足時から変わらないか	増えてきている	
21			なぜその分布に至ったか	花壇に工夫を凝らしアレンジし ていくため	
22		施設内容	植栽	植栽	花、ハーブ、芝桜
23				なぜその植栽を選定したか	助成される苗の中から選択した
24			設備	設備	ベンチ、テーブル
25				発案者	活動メンバー
26	利用頻度			活動時	
27	利用者			活動メンバー	
28		いつ利用するか	日常の活動時に休憩場所として 利用、お茶を飲む場として利用		
29	その他	問題点	問題点	なし	
30			解決のための努力	-	
31	今後の展開	今後の目標	今後の目標	花壇の土が痩せてきたので、土 を入れ替え、花壇を整備し直す こと	
32			欲しい施設	なし	

10. 浜の宮公園を愛する会

施設タイプ[2]

表 10. 浜の宮公園を愛する会 ヒアリング回答

		質問項目		回答	
1	活動内容	管理・運営 について	どんな人がメンバーか	公園に隣接する住民	
2			年齢層	50～60歳代	
3			人数	6人（変動なし）	
4			いつ発足したか	2000年	
5			どのような活動か	浜の宮公園の西側の縁石と、その向かいにある住宅6軒の塀沿いに花を植え、フラワーロードを作っている	
6			活動発足のきっかけ	地域をきれいにしたい	
7			活動の頻度	随時	
8			資金	行政からの助成金	加古川市より1万円/年
9				助成物資	加古川市緑化協会より花苗を年3回（1回に3ケース）、県から肥料
10				会費	なし
11				その他の収入源	コープ神戸より9万円/年、イベントのバザーによる利益
12				花壇の担当は割り振っているか	担当はないが自分の家の前の水やりと草引き程度（仕事などでできない時はお互い助け合って
13	花壇以外の活動	どのような活動か	ガーデニングコンテストへの参加、コープまつりでのバザー出店、花見の場として利用される、散歩コースになる		
14		頻度	年1回		
15		集まるメンバー数	活動により異なる		
16	施設形態	活動場所	面積・規模	1m×70m=70㎡	
17			所有者	加古川市、住民	
18			その土地を選んだ理由	自宅の前にあるから	
19		花壇の分布の仕方	花壇の分布の仕方	公園の中の一部、郵便局前の花	
20			発足時から変わらないか	同じ	
21			なぜその分布に至ったか	作業範囲が適当な広さであるから	
22		施設内容	植栽	植栽	花、低木
23				なぜその植栽を選定したか	縁石の上に植えているので育てやすい草花がよい
24	設備		設備	なし	
25			発案者	-	
26			利用頻度	-	
27			利用者	-	
28	いつ利用するか	-			
29	その他	問題点	問題点	公園内に指導設備がないので各自宅からホースを出しており、車の通行を気遣いながらの作業は大変であること	
30			解決のための努力	公園側に水栓をつけてもらうように交渉したが予算的に無理だと断られた	
31	今後の展開		今後の目標	花泥棒を防ぐこと	
32			欲しい施設	水道設備	

11. 花と緑のまちづくり高砂

施設タイプ[3]

表 11. 花と緑のまちづくり高砂 ヒアリング回答

		質問項目		回答	
1	活動内容	管理・運営 について	どんな人がメンバーか	地域住民	
2			年齢層	平均60歳代	
3			人数	会員は13人（10自治体の住民まで含めると300～400人）（変動あり）	
4			いつ発足したか	2000年3月	
5			どのような活動か	沿道2キロの花の補植、手入れ	
6			活動発足のきっかけ	この活動がしたいと高砂市に申請した。（市の緑化協会もあったが協働が難しかったのでボランティアとしてたちあがった）	
7			活動の頻度	定例会は月1回、手入れは各自治会に任せている	
8			資金	行政からの助成金	高砂市より（公園管理費を含む）約13万円/年（平成17年度実績）
9				助成物資	なし
10				会費	年間1000円×11人（平成17年度実績）
11				その他の収入源	寄付金（年により違う）
12				花壇の担当は割り振っているか	各自治会の範囲内は担当してもらおう（最初の花壇作りだけは協会を手伝う）
13		花壇以外の活動	どのような活動か	公園の清掃、ボランティア受け入れ、交流会	
14			頻度	公園清掃は年間を通して、ボランティア受け入れは不定、交流会は年2回	
15			集まるメンバー数	時々により違う	
16	施設形態	活動場所	面積・規模	沿道の木の根元約200本分	
17			所有者	兵庫県、高砂市	
18			その土地を選んだ理由	市のメインロードであり人目につくが、ポイ捨てが多かったため美化をかねて	
19		花壇の分布の仕方	花壇の分布の仕方	沿道2キロのケヤキ並木の根元	
20			発足時から変わらないか	4回にわけてだんだん増やしていった	
21			なぜその分布に至ったか	1回ですべての範囲に植えることは難しいので少しずつ増やした	
22		施設内容	植栽	植栽	花
23				なぜその植栽を選定したか	メンテナンスが楽で花がきれいな種類を選んだ
24	設備		設備	会議室（福祉会館の一室を無料で使える）	
25			発案者	市の役員から紹介してもらった	
26			利用頻度	月1回	
27			利用者	活動メンバー	
28			いつ利用するか	定例会時の話し合いの場として利用	
29	その他	問題点	問題点	人手不足	
30			解決のための努力	人集めのため団塊の世代を狙って声をかけている	
31		今後の展開	今後の目標	会員を30人ぐらいに増やしたい	
32			欲しい施設	なし	

12. 花の宝殿

施設タイプ[1]

表 12. 花の宝殿 ヒアリング回答

		質問項目		回答	
1	活動内容	管理・運営 について	どんな人がメンバーか	地域住民（中心となる4人は 淡路景観園芸学校の修了生）	
2			年齢層	60歳代が多い	
3			人数	18人（初めは5人でスタート し、その後口コミでメンバー	
4			いつ発足したか	2006年7月	
5			どのような活動か	駅前花壇の手入れ	
6			活動発足のきっかけ	草が生い茂っていた駅前ス ペースに何か植えたいと高砂 市に申し出た	
7			活動の頻度	水やりは当番制で毎日、全体 の作業は月1回	
8			資金	行政からの助成金	なし
9				助成物資	土、花、コンテナ（上限80万 円分、発足年度のみ）
10				会費	なし
11				その他の収入源	なし
12				花壇の担当は割り振っているか	なし
13	花壇以外の 活動	どのような活動か	今は発足したばかりでまだな いが、今後勉強会などコミュ ニケーションの場を増やして いく予定		
14		頻度	-		
15		集まるメンバー数	-		
16	施設形態	施設タイプ	活動場所	面積・規模	花壇243㎡、コンテナ24基
17				所有者	高砂市
18			その土地を選んだ理 由	以前から活動したいと思っ ていた場所であり、のじぎく 国体にむけて県が力を入れて いた時期でもあったのでタイ ミングがうまく合ったから	
19			花壇の分布 の仕方	花壇の分布の仕方	駅前に花壇2箇所、プランタ
20		発足時から変わらない か		同じ	
21			なぜその分布に至っ たか	花壇は荒れていたためキレイ にすることになり、プランタ は駅前の目立つところにきれ いに飾りたいと思ったから	
22		施設内容	植栽	植栽	花、低木、高木、
23				なぜその植栽を選定 したか	国体の時期に花が咲くよう にするため。また手入れのし やすさを考えて。
24	設備		設備	ベンチがわりのパイプ	
25			発案者	高砂市	
26		利用頻度	日常的に利用		
27		利用者	一般市民		
28		いつ利用するか	日常		
29	その他	問題点	問題点	手入れが届いていないところ が出てきている点。若いメン バーが欲しい点。	
30			解決のための努力	特になし	
31		今後の展開	今後の目標	オープンガーデンに参加した い、メンバーの花の知識を高 めたい	
32			欲しい施設	ベンチ	

13. 米田県住フラワーロード

施設タイプ[1]

表 13. 米田県住フラワーロード ヒアリング回答

		質問項目		回答		
1	活動内容	管理・運営 について	どんな人がメンバーか		県営住宅の住人	
2			年齢層		70歳代が多い	
3			人数		約30人	
4			いつ発足したか		2000年	
5			どのような活動か		県営住宅付近の花壇の手入れ	
6			活動発足のきっかけ		県の事業に参加後、助成が出る ことになったので活動を始めた	
7			活動の頻度			
8			資金	行政からの助成金		県より助成金（過去3年間の み）
9				助成物資		なし
10				会費		年間1000円×5人
11				その他の収入源		セブンイレブンからの基金 （過去2回のみ）
12					花壇の担当は割り振っているか	なし
13	花壇以外の 活動	どのような活動か		ドライフラワーでリース作り などの工芸会、見学旅行		
14		頻度		だいたい年1回		
15		集まるメンバー数		工芸会はメンバーほぼ全員、 見学旅行は3人前後		
16	施設形態	活動場所	面積・規模	250㎡		
17			所有者	兵庫県		
18			その土地を選んだ理由	県からの助成が出ることに なったため		
19		施設タイプ	花壇の分布の仕方		花壇2箇所	
20			発足時から変わらないか		1箇所から2箇所に増えた	
21		なぜその分布に至ったか		最初は1箇所のみだったがもう 1箇所きれいにしたいと の要望が地域住民から出た ため		
22		施設内容	植栽	植栽	県から貰った低木、ハーブ、 花	
23				なぜその植栽を選定したか		地域住民の通勤の通り道と なっており、やすらぎを与え られるように香りのある花や ハーブを選んだ。また夏には 涼しげに感じられるような種 類の花を選んでいる。
24			設備	設備		花壇の淵に座り、足を乗せら れる台を作ったが、誰かに盗 まれてしまい今はない。（施 設なし）
25				発案者		活動メンバー
26		利用頻度		-		
27		利用者		-		
28			いつ利用するか	-		
29	その他	問題点	問題点		ポイ捨てなどマナーが悪いこ と、メンバーの高齢化	
30			解決のための努力		子ども会への呼びかけPRを している	
31		今後の展開	今後の目標		オープンガーデンへの参加	
32			欲しい施設		特になし	

14. バーベナ淡路

施設タイプ[4]

表 14. バーベナ淡路 ヒアリング回答

		質問項目		回答	
1	活動内容	管理・運営 について	どんな人がメンバーか	地域住民	
2			年齢層	平均60歳代	
3			人数	110人（初めは15人でたちあげたが徐々にメンバーを増やした）	
4			いつ発足したか	1997年8月	
5			どのような活動か	8箇所の花壇の手入れ、沿道の住民へのプランタの配布	
6			活動発足のきっかけ	小学校前の花壇が荒れていたのでもきれいにしたいと思い、メンバーに呼びかけて発足した。平成11年の花博に向けて県も力を入れていたことも重なったため。	
7			活動の頻度	水やりは当番制で毎日、植え替えは年2回	
8			資金	行政からの助成金	なし
9				助成物資	年2回花苗の支給（内容は県が決める）
10				会費	4000円/年
11				その他の収入源	社会福祉協議会より3万円/年
12				花壇の担当は割り振っているか	なし
13	花壇以外の活動	どのような活動か	寄せ植え展（イベント）、講座、講演会、見学旅行、ガイドボランティア、島のまつりに参加		
14		頻度	年1回		
15		集まるメンバー数	70～80人		
16	施設形態	施設タイプ	活動場所	面積・規模	100～200㎡×8箇所、沿道のプランタ
17			所有者	淡路市	
18			その土地を選んだ理由	沿道の人通りが多く、目立つところだったから	
19		花壇の分布の仕方	花壇の分布の仕方	8箇所	
20			発足時から変わらないか	初めは1箇所だったが徐々に増えてきた	
21			なぜその分布に至ったか	ゴミ捨て場のようにになっていた荒地をきれいにしようと思いどんどん増やしていった	
22		施設内容	植栽	植栽	花、花木、常緑樹（低木）、草花
23				なぜその植栽を選定したか	手入れの楽な花木を取り入れ、四季おりおりに順に花が咲くようにしている。
24			設備	設備	花壇の中に通路（道路の交通量が多く危ないので、通り道を作った）、枕木を並べたベンチ
25				発案者	活動メンバー
26	利用頻度			日常的	
27	利用者			活動メンバー、地域住民	
28			いつ利用するか	日常的に休憩に等を使う	
29	その他		問題点	問題点	メンバーの高齢化
30		解決のための努力		募集をかけている。活動の幅を広げることでメンバーの年齢層を広げようと試みている	
31		今後の展開	今後の目標	活動を花壇だけにとどまらず、島民の意識変化を図り花の島にしたい	
32		欲しい施設	水道設備		

15. コープデイズ神戸西店 ローズマリー

施設タイプ[2]

表 15. コープデイズ神戸西店 ローズマリー ヒアリング回答

		質問項目		回答	
1	活動内容	管理・運営 について	どんな人がメンバーか	地域住民（コープ組合員が中心）	
2			年齢層	平均55歳ぐらい	
3			人数	8人（ほぼ変動なし）	
4			いつ発足したか	1996年	
5			どのような活動か	コープ店舗前の花壇及びプランタの手入れ	
6			活動発足のきっかけ	震災後に街が荒れたのでキレイにしようとコープがまちづくり運動の一環としてサークルを募集した	
7			活動の頻度	水やりは随時、植え替えは年4回	
8			資金	行政からの助成金	なし
9				助成物資	なし
10				会費	なし
11				その他の収入源	コープより3万円/年、バザーで得た利益
12				花壇の担当は割り振っている	なし
13		花壇以外の活動	どのような活動か	バザー、講習会	
14			頻度	年2回（春・秋）	
15			集まるメンバー数	メンバー全員、一般のお客さん50人程度	
16	施設形態	施設タイプ	活動場所	面積・規模	10×1m=10㎡、コンテナ16基
17				所有者	コープ
18			その土地を選んだ理由	震災後に街が荒れたのでキレイにしようとコープがまちづくり運動の一環としてサークルを募集した	
19		花壇の分布の仕方	花壇の分布の仕方	花壇1箇所、コンテナ16基	
20			発足時から変わらな ないか	初めは花壇だけだったが、後からコンテナを設置した	
21			なぜその分布に至ったか	店の前のスペースに路上駐輪が多く困っていたので駐輪を防ぐためにコンテナを並べた	
22		施設内容	植栽	植栽	花、低木
23				なぜその植栽を選定したか	植え替えが不要な低木を織り交ぜ、手入れがしやすいようにしたため
24			設備	設備	ベンチ、会議室（コープ店内）
25				発案者	コープ
26	利用頻度			日常的に利用	
27	利用者	ベンチ...一般客、会議室...活動メンバー			
28		いつ利用するか	ベンチ...来客時に休憩のために利用、会議室...活動の際に利用		
29	その他	問題点	問題点	資金、人数不足	
30			解決のための努力	メンバー募集をかけているがなかなか集まらず、また継続して活動できる人が少ないから	
31		今後の展開	今後の目標	継続すること	
32			欲しい施設	特になし	

16. 500人委員会板宿会

施設タイプ[2]

表 16. 500人委員会板宿会 ヒアリング回答

		質問項目		回答	
1	活動内容	管理・運営について	どんな人がメンバーか	地域住民、花の好きな人	
2			年齢層	40～70歳	
3			人数	19人（発足当時は10人だったが、活動に賛同した人が加わった）	
4			いつ発足したか	1999年	
5			どのような活動か	ショッピングセンター前の花壇、沿道の花壇	
6			活動発足のきっかけ	震災後荒れていた街をこころやすらげる花と緑あふれる街にしたいと発足した	
7			活動の頻度	月2回（個人では随時）	
8			資金	行政からの助成金	発足初期のころは助成が多かったが、現在はなし
9				助成物資	花（150万円/年）、肥料等の園芸用品（100万円/年）
10				会費	2000円/年（19人）
11				その他の収入源	セブンイレブンみどりの基金5万円（1回限り）
12				花壇の担当は割り振っているか	なし
13			花壇以外の活動	どのような活動か	自然観察会、講習会（今までに43回開講）、クラフト作成、(年2回)
14				頻度	年3回程度
15				集まるメンバー数	約30人
16	施設形態	施設タイプ	活動場所	面積・規模	花壇面積は不明だが、約0.4km <sup>2</sup> に10個の花壇が点在している
17			所有者	ショッピングセンター前花壇・・・ショッピングセンター、その他の花壇・・・神戸市	
18			その土地を選んだ理由	地域で緑化できる場所を探し、所有者に交渉した。	
19		花壇の分布の仕方	花壇の分布の仕方	10ヶ所	
20			発足時から変わらな	初めはショッピングセンター周辺のみだったが、徐々に増えていった	
21			なぜその分布に至ったか	神戸市から頼まれて花壇を増やしていった	
22	施設内容	植栽	植栽	花、高木、低木、	
23			なぜその植栽を選定したか	日照やその場所に合うものを選んで選んだ	
24		設備	設備	ベンチ(手作り)	
25			発案者	活動メンバー	
26			利用頻度	日常的に利用	
27			利用者	地域住民	
28			いつ利用するか	休憩時に利用される	
29		その他	問題点	問題点	ポイ捨て、花を踏まれる、花どろぼう
30	解決のための努力			常に花壇をきれいに保っていたらポイ捨ては減っていった	
31	今後の展開	今後の目標	無理せずに活動を継続させること		
32		欲しい施設	特になし		

17. 春日町自治会

施設タイプ[1]

表 17. 春日町自治会 ヒアリング回答

		質問項目		回答	
1	活動内容	管理・運営 について	どんな人がメンバーか	地域住民	
2			年齢層	平均60代後半	
3			人数	550世帯（自治会会員）	
4			いつ発足したか	2002年	
5			どのような活動か	公園内のふれあい花壇の手入れ	
6			活動発足のきっかけ	地域での犯罪が多く、荒れていた公園ではホームレスがいたり、ゴミを置いて帰る人がいたり、犬のフンが多く不潔だったので、住民が寄り付かなかった。その公園を何とかキレイにし、子供やお年寄りが安心して過ごせる場を作りたかったため。	
7			活動の頻度	集まりは月2回以上。花壇の手入れは随時。	
8			資金	行政からの助成金	15万円/年
9				助成物資	なし
10				会費	650円/年×550世帯
11				その他の収入源	資源ごみの回収による利益
12				花壇の担当は割り振っているか	なし
13	花壇以外の活動	どのような活動か	防災訓練(年1回)、人命救助訓練(2年に1回)、夜のパトロール(週1回)、町内清掃(月1回)、公園の管理(随時)、オープンガーデンの参加、リサイクル(資源ごみ回収)、イベント(七夕まつり、やきいも、桜祭り)		
14		頻度	活動により異なる		
15		集まるメンバー数	40名ぐらい		
16	施設形態	活動場所	面積・規模	45㎡(公園全体は3000㎡)	
17			所有者	芦屋市	
18			その土地を選んだ理由	多くの人が集まり、くつろげる場所であるから。	
19		花壇の分布の仕方	花壇の分布の仕方	公園内に5箇所	
20			発足時から変わらないか	同じ	
21			なぜその分布に至ったか	子供やお年寄りが安心して過ごせるように	
22		施設内容	植栽	植栽	花、高木の剪定
23				なぜその植栽を選定したか	周囲に木が多いので、花を植えるほうがキレイだから。季節の花を植えることで年2回はみんなが集まる機会を作れるから。
24	設備		設備	防災倉庫、あずまや、ベンチ、遊具、掲示板	
25			発案者	芦屋市	
26		利用頻度	常時		
27		利用者	地域住民		
28		いつ利用するか	日常時、イベント時		
29	その他	問題点	問題点	新しい人がなかなか参加してもらえない。若い人が少ない。	
30			解決のための努力	回覧やポスターで呼びかけ。	
31		今後の展開	今後の目標	違うものを取り入れてみんなで協力できる形を持続したい	
32			欲しい施設	遊具	

18. レスタージュ芦屋 グリーンクラブ

施設タイプ[1]

表 18. レスタージュ芦屋 グリーンクラブ ヒアリング回答

		質問項目		回答	
1	活動内容	管理・運営 について	どんな人がメンバーか	マンション住民	
2			年齢層	40～70歳	
3			人数	15人(はじめは3人だったがメンバーを募り増やした)	
4			いつ発足したか	2002年	
5			どのような活動か	自分たちの住むマンションの周辺の植栽の手入れ	
6			活動発足のきっかけ	マンションの住民同士で花好きが集まり、マンションの周囲を花と緑でキレイにしようと考えた	
7			活動の頻度	月一回(個々人で随時)	
8			資金	行政からの助成金	芦屋市から5万円/年
9				助成物資	苗や土の助成(年2回)
10				会費	なし
11				その他の収入源	マンション管理費より
12				花壇の担当は割り振っている	なし
13	花壇以外の活動	どのような活動か	見学旅行、広報発行(月1回)、ボランティア活動、講習会、お茶会、子供の遊び場として利用される、犬の散歩コースとして利用される		
14		頻度	活動により異なる		
15		集まるメンバー数	約7～15人		
16	施設形態	活動場所	面積・規模	約112㎡	
17			所有者	マンション住民	
18			その土地を選んだ理由	自分たちのマンションの周囲を花と緑でキレイにしようと考えた	
19		花壇の分布の仕方	花壇の分布の仕方	公園、裏庭、屋上庭園、マンション周辺、(春・夏はプランタ12基設置)	
20			発足時から変わらないか	はじめは建物の周りのみだった	
21			なぜその分布に至ったか	もっとキレイにしたいと思い活動の範囲を広げた。	
22		施設内容	植栽	植栽	花、高木、低木、ハーブ
23				なぜその植栽を選定したか	季節感が感じられる花と、みんなが楽しめるような植栽にした
24			設備	設備	灌水装置、ベンチ
25				発案者	灌水装置・・・活動メンバー、ベンチ・・・マンション管理組合
26	利用頻度			活動時・日常的に利用	
27	利用者			住民	
28		いつ利用するか	日常		
29	その他	問題点	問題点	散水装置が不十分、活動できるメンバーを増やしたい	
30			解決のための努力	予算の確保、広報をエレベータ内に掲示する	
31		今後の展開	今後の目標	ガーデニングのスキルアップを目指したい	
32			欲しい施設	休憩スペース(パーゴラ・・・つるを這わせた屋根)が欲しい	